

小幡彦日誌
昭和七年三月
中浣以降

特別

14
1919
613

50

45

40

35

小樽産日記

昭和七年三月中浣以降

三月十六日

昨朝来文書をよみ見字大隈侯の序を業心
 初稿成り、海色式流中身流、勝を妻代
 杉山田法郎自叙、日本国多岐協会を来
 書、早大教授伊地知純正海外遊記のつぎ先
 公の書物到来、午後ありとて外出ぬりの
 春城寺出席者と野へいき菓子十重の箱を

増文の巻に三あり御書、丹兵衛原平の
未也、旋録を兼す。

十七日

昨、朝未文書より元々大隈侯の巻首の
序を稱す、二標題を揮毫、木村陽未の
敬慕今々の事務を帰譲す、喜代四子致
後、三十五のつき先をせす、提進者心教也
御書未の巻首を兼す、五時と春成今に臨出
先日十七日、延辰より午都合より一月迄の

榎原製

乃也、今坊淡名旅記可二下目杉島屋、月令者
余の十八名、松木(延)打山、龜、中野、城、土、上、山
花、寺、院、主、丈、江、其、奥、田、令、君、大、江、江、小、在、望、三、昆、田
兄、未、石、心、作、存、(世、助) 出、世、名、言、也 等、例、依、り、賑、ふ、余、を、銘、々
に、集、子、を、好、す

十八日

昨、麻生山花子、名、死、云、吉、田、和、男、未、書、森、陽、美、折
敬慕今、つき未活、早稲田大寺、因、書、録、も、し
洋書目録、才二、一、冊、才一、冊、印刷、成、り、贈、り、未

日、雜俎を筆す、未月大隈元辰紀念会との折、
児重の為の放送余すこととす、
得て其の略稿を草す、午後お田印く行き
稀書殺未念今のころを協議す、又四五あ回
の和志と見、丑時前と七和申あす山田山田
と流心：酒合らして飲ん

十九日

昨、朝未だおと筆す、楠瀬：一云を著す、楠瀬惘未
の、大隈原景恭碑の記文集字并に家数を

榑原製

托す、會由節原より訪、早大に話成、
通知并に滋葉を廻り、未だ、文書と見
る、大隈侯の序文を著す、
あ、送、午後二時、家を訪ひ、繼志、
お、和、純、朝鮮と就て前回の續とを済漢す、
未

二十日

所、大隈侯と就放送す、
尾中、世、来、坊、関、谷、秋、大、中、其、の、著、不、思、心、可

考紀を七葉帯し来り古の書讀しとある。又
行願のう一説を約し、經を兼す、午後烈
爪と肩と散葉文の物を訪ひて一二の圖
書を焼つて焼く。

二十一日

春孝皇靈祭

晴、比叡入、朝来經を兼す、十時の出
御、後丹後、許波子滅也と付ひ来り物を
焼つて去る、不在中寺、時元重十斗、初、関みの
加野、何考を後、且の抄す、柿瀬日年

藤原製

大隈、後、經、經、家、欵、の、務、を、定、む、也、
す。

二十二日

晴、瓜、經、經、を、兼、す、の、經、東、都、に、行、く、の、き、京
都、の、經、子、重、の、經、す、其、日、の、經、を、兼、す、其、代、格、に
簡、す、當、經、法、を、兼、す、未、出、改、に、献、す、其、法、を、兼、
す、田、經、訪、前、帝、島、長、經、未、經、物、を、經、す、宗、家、兼、
す、法、橋、經、二、經、不、す、經、を、兼、す、未、亡、人、三、男、三、
早、大、經、二、科、く、入、る、の、為、也、兼、來、經、物、を、經、す、

三者巻編輯不々々々所志料九冊成。其後
不支慎々々々。其後所校無抄多々々々。其後
午後散果由書後所校無抄多々々々。

二十三日

所伊長成法今所八二の紀不々々々。其後
早大入二の二つと云々々々。其後
就七流す。其後所校無抄多々々々。其後
行をやま。其後所校無抄多々々々。其後
大々々々。其後所校無抄多々々々。其後

徳原製

午後散果。茶室の垣根を修理す。元字家
の支助と發着の役をくわく。夜水山雨一色。

二十四日

雨霜。高須昔次中々々々。其後
脚敷裏の分の事務打合の爲来々。其後
の校正指と校訂す。其後所校無抄多々々々。其後
指、十一時外出物を掃ふ。其後
田中光敷伯の古経巻跋数枚を膠写す。其後
為伊助三田村大印々々々々。其後

三十五日

今朝未古任魁返千守、前田陽山も来書、
日吉印刷舎池の葦和宣生に、書き下し久江
州内来泊、古柳道垣早大も満満、派
老より書き来指、丹吳六協平早大入号紙
駟二つき来り、三者わも、鶴助旋、泰十
六冊戻、出政部も、也利二程、卯年午後
散策帰宅後、故墓今事務用書簡三通の
案を心入、延公信古も来出、人の考、揮毫、
伊藤成流も来出

榎原製

二十一日

西相未古任魁返、藤吉、木林陽を招き、故墓今事務
を安、田田下政流、又息正三を伴ひ、早大、受駟、付
来、成石、成、中、河、南、次、中、路、七、来、流、日本、回
寺、飯、場、今、も、来、出、未、月、十、日、大、隈、元、辰、夫、婦、十、年
祭、二、つ、き、大、隈、今、辰、大、隈、家、も、来、出、布、施、表、流
も、古、文、書、記、録、辞、典、(ア、部)を、安、の、七、来、出、注
栲、鞆、二、つ、間、十、水、谷、小、石、を、持、卷、二、三、楮、入、
故、墓、今、の、件、二、つ、き、大、美、公、曾、ね、一、書、を、来、出、
午後、故、策、田、山、孫、津、山、女、学、校、長、杉、山、山、三、つ、井、二、

日市長の泥敷より上りて余の押巻を徴し来り、
古江魁頭と勝負し七ノ刻に到り。

二十七日

日

古江魁頭と勝負す、江島桑雄来振、旋廻を
業す、三田村大上即ち子一より早大入りのこき
来り、丹後俊秀誠也此を来り、押巻の帖を交
付、龜山素三江隈園の飛瀑の大幅を持来り
田中先助而来訪、瓜空に絶し、烈風の為りか甚く漏
電家人騒ぐ、午後收束、塘衣たり子路崎と作

藤原製

魁頭切手十面貯り、佐藤港より河魚を貯り
来り、修繕の為表を危くせり、二書生を成り、布
旋巻の泥に函をとり、漏電を察す、為茶のりの
子路崎を扱す。

二十八日

時分、佐藤伊助と伺す、勝本喜代松来振、
坂上弘花と射を受く、古江魁頭と射
寫生四七所、伊藤山射替居美人を伴ひて来り、十
時迄に降雨、午後六年族令館と於て文の協合

講演今と聞くと、満洲の國家の前途に就き長
野圃の講演あり、六時とて晩の早軒に都山
各社の形多記有十数名を迎へて四月十日大
隈彦進博人の事を披露し、宣伝を囑す
雨志きりし降る、諸橋轍二とて未也。

二十九日

而、熱海の館の遊遊に伺す、趙炳傑東の訪
其をちとて、筆墨を贈る。伊原伊助東の訪
押見を興山石塚三の東、山陽の橋原に赴

署、杉平原四に投函、丹後折治とて未也
知り、室坊預金三千圓引出す、先毛皮襪
を代換金万七千圓拂済、早大とて評議之會
の決議報告に接す、古任是故と騰字し、亦宛
報を筆す、回禮社とて未也

三十日

而、朝来古任是故騰字、龜山素三、飛瀑出泉
大橋代二十五圓交付、小林堅三、武田尾吉、来訪
繼志、今圖書協会より来り、間、栗林未文、山原日傳

未の物を贈る。教菜又の巻、三十日押入陸奥
郡郷考(版本珍書)を贈ふ。ほ内道進(と進)を
列す。丹後俊彦口誠也来訪を夜一旦伺つて報
してある。内子病退を知らせ、四月十日放送の概要
を放送局に寄す。内流令く退令通知を寄す。
鹿心香磨の訃到る。

卅一日

時、七匠懸頭と膳宿寺嶋元重来指、沼部求
り近若と、其のて来り、午後完を付少と事出

割坊の賦畫と見る

又

四月

一日

時、鹿心香磨の生あ式、踏あ踏いせり、(又)遺子
忠磨香磨に梅状を出す。熱出く赴く為め九時
五分有車先出しり、来り、車中難港耽後、熱海
着ぬ、先つは内道進を泊め、今日午後露木
方、難騷の日合あり、道進と共に出席を約し

舞帯のウ井大キーを贈り、時々、此所の天候寒く
桜花未比開かず、道邊と暫しの後、七抱中巻に
投ず、心せし辭し云々とする井上辰丸中、今未
二月中、師大入、四催り、日終後、静養の力、め旬日
こゝに在り由語り、午飯後、三井元福若の父親と
てのゲーテを讀み、七時と移り、叔業中、樟巻の
世用樟巻半襟、三草、前と呼ぶ、生田七郎、来り、其の
間、流下、五時、露木の路江在り、赴き、道邊と共に
雜駢社、只人の、六、今、此、西、河、西、飲、酒
合、朗、吟、高、瀬、土、飲、天、河、流、月、金子、茶、室

榎原製

（都立多紀書）田原良夫（中興高業）石川等
三、中、細、山、喜、五、術（世役）生田七郎、等と
今、才、西、河、留、故、過、飯、レ、ヤ、ム、に、遊、ん、び、飲、く、
序、上、日、回、り、此、況、を、聴、く、痛、飲、十、時、終、
全、心、物、々、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、
之、由、山、深、丸、香、々、奉、天、島、觀、潮、彩、天、寛、方
栄、心、等、皆、社、中、也

二日

此、今、朝、乃、時、伊、豆、山、相、撲、心、渡、回、に、振、え、道、邊

の意の塵を拂ひんとす。佛の歌聲の西海而歌る
合明風を川に舟を乗りて海に嘉兵衛舟の白
行を治りし任りも生回中とせし行くたの云
関の前の今心方と其くする。座敷刻し七揚けあり
主人の意勤に出り余の行の人のありし此を
の来歴并に道徳と語り、橋上の方高き、前日全
の江表の如く、道徳の書物若書字と其等列
しあり、跡家に居りて、此家道徳の四時の夜
室也主人の需りし任りも皆に押是す。塵をこぼ
け多く、正の花を戴せんとす。振枝塵をこぼし

積原製

其の村下も、波を叩き、風吹き、一行時表
こぶ十時半解し、一行所入の村の在を功
七淡笑、午行の細心と多け、余の後主人執筆、
の新心鬼子母神とを其等の為り、朗讀し、頌
の真を其の、えも、紙を展べて、念心と流す
余も、清く、任りし七、八紙と揮、其の、五時入
り、皆能く、あり、西洋舟の夜、由京、こ、途に
就く、余ハ、生由を付し、旅舎に、一、臥、後、度
労を免く、其の、寝、く、就く

三日

日

晴、報来、旅泊と兼、九時半に到り、やむ、市中
 教業十一時廿分の汽車にて回中、内子二番
 此不在中、松平、原田、田下、政次、伊藤、成
 流、中、深、席、次、中、本、来、物、松、平、三、噓、し、了
 進、博、文、物、成、了、如、此、麻、生、山、新、三、田、村
 大、中、有、須、芳、次、中、故、送、向、放、送、ア、長、矢
 部、田、次、中、才、も、未、前、田、下、政、次、も、物、を
 贈、り、来、り、里、江、瑞、範、も、未、也、幸、深、田、之、彼
 り、余、が、松、平、の、集、書、事、蹟、を、扱、め、り、於、松、平、石、川

榎原製

教育を定むるも、松平、原田、流、也、を、扱、り、す
 閑、乘、り、七、古、徑、題、跋、を、勝、号、す、内、子、の、着、夏、美
 珍

四日

晴、半、尾、中、遊、来、梅、十、年、前、大、隈、侯、回、民、桑
 富、日、の、技、刺、八、萬、を、下、凡、公、に、装、冊、し、父、几、之、一、二
 回、民、表、戒、痕、と、題、し、且、の、小、序、を、綴、す、古、徑
 題、跋、荒、干、校、勝、号、伊、藤、成、流、彼、若、平、十、日
 功、所、得、税、四、百、圓、納、付、武、田、尾、左、田、付、高

田のそとをゆき出版部の経費に回す、森
脇敬義、今の打金の為に来る、午後難波に
即来、先と付く、お出物と贈り、白木
屋の囀、一應に親世方の献燈、揮毫、夕刻回者
飯塚今の理事、今もあんと七欠席

五日

朝、四時半、しき、地客あり、可なり、函、野村茂三宇都宮林
二郵書を分す、入字の件に關す、古経題跋を
藤宮、森川、意し、わ、り、来、出、館、恭、平、来、往、十、和、田、湖

榊原製

三、関し、小松尚来訪、十一時、過日、比、谷、公、倉、曾、敬、慕
今委員と會し、法殿の報告をり、當日の打
金をり、今、今、し、七、教、す、十、時、三、時、三、者、中、よ
り、鶏、肋、雜、羹、今、部、戻、り、野、々、打、式、三、三、三、(来)
達の及、出、列、の

六日

晴、朝来、日、深、の、膝、言、を、為、す、回、者、飯、保、存、の、圓、民、舞
投、刺、帳、三、序、を、也、り、西、洋、音、歌、録、の、シ、ヤ、ム、口、袋、小、五
人、形、十、数、を、贈、り、武、田、尾、美、丹、美、長、男、山、田、信、心

文の来り、復物志今本ニ配本、舊同々取来、
龜山書下三七来り、明後日又刻田中光顯伯と共に
高田の新居に扱ふ、古紙題跋随見録才一冊寄
り、篠田鏡造より手卷の深庵を寄せ来り、
清浄心院南無摩訶訶り、来尚、五時お多岐
に赴き、睦令、臨出、丹後持沈より来電子息
入りのこつき、云々、来り

七日

明、丹後持沈、栗林羊一、云物と名、横

徳原製

文重道、高島次、去り、来書、小松、有、
日本回、有、秋、城、等、来り、関谷、機、太、相
馬、武、夫、来、接、報、知、名、大、田、定、入、大、隈、辰、の
送、事、と、終、り、北、川、鶴、直、下、り、来、出、且、印、漢、を
焼、り、来、り、十、一、の、り、先、と、付、少、と、出、掛、口、を、持、り
甚、兵、衛、の、酒、飲、り、和、を、獲、り、と、物、と、り、碎、後、押
直、毛、敷、紙、成、り、寺、の、元、重、り、来、書、の、在、来、回
情、士、も、へ、う、ん、ド、ト、リ、ロ、エ、ー、ン、敷、部、と、云、の
セ、り、ある、日、深、の、古、紙、送、跋、と、勝、字、夜、来、由

八日

雨、日深の膝言をさす。日山山深山杉山守三、
、押基取、低郵送、三者を我謝秀松より来出
阪上弘彦来り、江射を施す。栗木、祝威、山屋、来
河、佐藤、伊助、も来出、又神樂、以卷衣の由、就
到、午後、送、七、出、游、上野、新、開、の、停、車、場、と
祝、心、に、開、心、と、す、も、極、と、見、七、ゆ、く、旅、程、を、案
し、又、刻、に、到、り。

九日

榎原製

武田、尾、吉、山、林、堅、三、小、河、日、深、の、膝、言、り、
山、平、三、名、家、印、二、三、持、来、り、高、田、止、戈、天、ヨ、り、来、河、十
時、印、刷、令、社、の、重、役、令、令、臨、み、今、地、創、立、廿、五、内
年、内、祝、の、り、を、決、す、又、者、も、も、え、り、大、隈、彦
の、物、名、本、成、る、其、謝、の、品、子、の、毛、紙、短、冊、張
コ、小、席、込、も、懸、ふ、價、三、十、四、拂、海、栗、木
羊、一、も、も、来、出、山、武、夫、も、も、無、果、花、の、鐘
法、三、個、到、来、高、田、止、戈、夫、に、去、ん、山、亦、佐、藤
伊、助、に、投、簡、北、川、蝠、亭、に、謝、書、を、め、が、す、
高、橋、光、威、死、去

十日

晴、風、朝来日課の七任題跋、見物と膝守、
八時、蓮花寺大隈侯墓、不刊、今日、侯夫人
帰の爲め、蓮花寺前祭あり、矢立列す、侯本、嘉治馬
と曰、伴物書、七時、開法す、互、京都、今、伴、八、
物を、怒り、来り、不、在、中、里、井、清、氣、未、分、午後
二時、亦、大隈家、に、招、え、大隈、今、級、に、刊、り、茶
葉、の、御、意、も、受、く、此、の、集、會、に、臨、み、の、日、故、集、會
今、の、法、般、打、會、を、為、す、阪、本、嘉、治、馬、に、中、様
の、集、會、前、日、法、二、冊、付、け、冊、共、一、冊、法、二、冊、未、也

徳原製

昆田木文、一、と、十一、の、後、昆、今、の、あ、ま、ゆ、と、今、も、

十一日

今日、故、集、會、を、行、儀、十日、の、き、天氣、未、を、氣、を、
い、り、先、の、時、天、を、得、な、る、を、ま、長、が、朝、来、う、い、大
故、之、の、名、好、を、使、す、鮮、人、花、柄、集、に、指、毫、と
世、公、子、母、華、を、怒、り、**蓮、花、寺、前、祭、**、
如、洋、の、名、紙、二、枚、付、け、今、伴、八、に、来、前
堀、口、蘇、山、来、搦、以、え、今、集、記、數、十、冊、を、示、さ、る、干、松、後
日、比、谷、公、會、を、刊、り、委員、と、共、に、法、般、の、準備、を、為、す

所田忠流を奉志定刻五時合をわに於て是れ人合
をひしく奉合四方名喚を供し余も奉合の
任こも報告大隈展より御新あり余の席を外
し及中放るるにむり六時此堂の時言
大隈展に就し三十分致とを為す公合をく物
一り奉らんハ満員の札張りあり武場に入つてえん
がまの開式前こも場り人を以つて換する盛観
言はん方より、河カまゝ式始まう、山本連雄男を
日合者こ推し、先づ三十団体の献死式を行ひ
既に山本男敬慕今の進悼文を讀み、大隈公首

棟原製

おの進悼文子息健朗後早稲田のバンド敬
慕歌を奏し式より、海浜に移る、荒柳男奉
次鐵首海浜の後徳富義隆の扁床をもち、書も
以て演説をも代讀し、今案より大の感銘を
へり、終つて大隈展の平生を映す一巻演説
寫すの二三種を録具に映し十時散會、今日の海浜
中區の全國通過の北、今日の行事ハ常務理事の手
導ひより進行、懇切以上の盛會を見望す満
し。

十二日

雨朝来、深の腰方と多す、打上依る伊印代
も借入を二る早の昔は二行る早の也、あ
うて是を為給もえす、柴印とえくともあ
一のえをほのこも持、一二の物を給ん、
昔あ、酒ならし物く、用、乘し、古経、
腰方し時方と多す、宇尾の深、
由と熱しとある、古林、
息到る。

榎原製

十二日

晴風、古行、
中、
夏と史命、
七、
杉山、
つ、
酒、
十一日、

満開の梅花を見た。未だ若くして見栄るを
を懐く。物語文行巻を訪ふ。日本保赤会訂
長の原典字典を見た。

十四日

町、元七付の上で満開の花を賞し、動物園に入
り時を費す。園内の梅花之木も見るべし。出生的
代に記し、ある閑り亭に在る北園地形を
少し考し、元七の梅見の祝賀のよめをうしむ。
今日大いなる猿張らん、日本保赤会六の衛と酒

徳原製

飲し七物、市此を採り、物を貯りて置く。白米
屋にも七物を貯り、未だ、物も後三時、寝るまじ
睡る。

十五日

町、楠瀬向に投筒作、新伊助より未だ、五時、花を
田中先野伯を立ち、活の誓の詠とゆく。不事、
丹美、平山、出、東、司、物、物を怒る。九時、
雨、雨、十一時、出、政、部、の、彼、人、と、臨、志、
物、も、後、旅、館、と、事、し、時、を、移、す、
夢、の

久保は、其の、立時田中克敏伯と云々、扱へん高の
の、新居、利、晚、各の、意、と、多、く、能、谷、元、克
段、田、増、平、一、と、来、書

十六日

両書、丹、其、協、平、一、来、の、早、大、入、番、初、者、の、納、印、東、
山、西、蔭、珍、の、其、を、終、之、山、素、三、と、川、路、燈
漢、の、特、稿、二、冊、外、語、言、概、略、便、説、一、冊、贈、入、の
六、十、日、拂、込、梅、瀬、向、の、行、亦、一、と、春、陽、堂
の、氣、賀、来、一、と、可、治、經、法、の、寄、行、と、也

漢原抄

と、也、段、上、山、蔭、有、う、注、射、を、施、す、山、川、吟
光、臨、て、来、治、押、其、を、其、の、大、隈、辰、并
友、込、と、向、理、と、也、川、中、重、九、郎、と、也、謝、也
利、之、高、橋、大、洋、一、と、接、能、保、を、著、す、高
田、止、戈、夫、と、来、也、午、後、散、策、物、を、悔、め、也
ゆ、く、光、宗、家、へ、行、く、夕、刻、横、矢、を、道、に、扱、え、霞
山、鼓、と、近、衛、公、等、と、也、其、の、細、意、を、多、く、此、夕、べ
亦、上、野、の、丹、平、松、園、と、昆、田、の、下、の、後、日、昆、子
あり、出、席、丹、其、原、平、一、と、扱、河

廿七日

日

晴風、久保保本、久保の如命を来梅、石原三
 郎、田下父子を伴ふて来り。松原を著す、寺崎
 元重、早大入の云の丸山喜雄を伴ふて身泊、丸
 山と拍雅、尾宗世世の鉄鏡、四維深の置物
 を贈る、長又、川福、平山、あの方、女、近
 懐文と物不流す、元日付のものを持参し、物を辨
 公持時、酒飲す、由来春陽也、噓、是
 本草に因りて随筆一篇を著し、善本
 影譜才四輯配本

藤原製

十八日

晴、春陽也、宛随筆一篇を寄す、松原を著
 す、丹兵衛、長梅、富山、房の噓、是、近懐文
 を筆し、初稿五六枚成り、平山也、と井上子
 守家、長、大目、初未、設、天、局、と、三十四
 湖、全、別、未、江、崎、山、也、と、修、地、別、未、午後
 散策、来、う、の、也、を、訪、つ、て、佛、像、板、碑、一、五、枚、元、四
 年の年号あるものを得て歸る。

十九日

今曉強雨あり「富山房の今昔」と題する一稿を長
九州福平、郵送、武田尾吉來稿、春陽堂の藝
賀林一と來書、日本美術協会今昔と來書、以
治今脱今二付の今昔と承流通和利と、平野隆美
夫の印創の近状を報先とあり、今創創立廿
五内年二つと内祝日酒肴料を職工秘費に欲
ち日畢、今日余七在る五十四受領、午後松
本金大（稀音家六四）と毒物坂下町多坊、
七印のことと内法、伯金平山中、三五寄頼
山陽細鮫歌の幅、ち中四掛入、更々、勝

徳原製

浪舟自言本恭平年表を嬉しく讀了、宇
尾の遊麻生山菊、夜今朝及等と來書

二十日

晴風、今朝早く外出、文行巻を讀め、二二の巻を
得大柳盤活の目版木代十日拂、珠珀巻、天創
地務圖代十日拂、始生、通り、霞女、辰民、春多
術木、形、の、羊、を、嬉、ひ、弄、ひ、上、空、く、唐、り、精、春
軒の庭園、今昔と酒肴料を職工秘費に欲
ち日畢、今日余七在る五十四受領、午後松
本金大（稀音家六四）と毒物坂下町多坊、
七印のことと内法、伯金平山中、三五寄頼
山陽細鮫歌の幅、ち中四掛入、更々、勝

中央分務の扱ひ等々河内の新山河南の里とて後
久、夜来の

廿一日

所、今朝先宗家夫婦ははりんちゆ摩訶波多神
の考あ行く、柿瀬恂四氏故墓碑の集字の初を
を齋しー未の、早大とて廿八日大隈故法長進博
今のあ本内北井三回醇今の通藤到る、在名
古居の四代亮候とて月漱滋詩十数首を寄
せり候、十時とて教兼午後初毛外出中

徳原製

市山本松中川冷光才才、の四川政文に揮毫
と興つ、高松大澤とて未前

二十二日

所、後妻は夕の山下雄次来接、詮七宇和
島の人久保貢、秋山陽の遺跡、井原西路
の首鑑と流し来り示せり、葉子一函贈る、
横尾文りをとて未也、勝本長代、杉末功、
赤市島長杉末流、吉井一とて河上淳一市
思ひ出流一冊寄り来り、午後先を伴ふ

数葉三紙の物を購ふて洵く、旋ねと筆
し七時を移す、静宮殿大火の五戸
焼失の報あり、東武東上支電線完ふ惣罷
業の弊お出づ。

廿三日

昨朝未旋ねを筆し一時を移す、日本圖書
館協会と未蝶、小川冷光人を伴ひ来り
其の指帶の古墨蹟を一巻し、和田英松に於
て名刺を其の、又の巻を二冊す、森脇美樹

新纂今之志仕末二つを未蝶、三者巻く、因解
現代百科辞典第一巻を寄せ、未の午後上
午橋と志の日本美術協会に列り列るを見
る巻房品中、井高松宮瑞不庵の秋山瑞
家聖記巻、彫山細刻の象聖を親種
物志の巻を贈ふて洵く、卯馬洋村山
巻の巻の巻を寄り、新編栗林夜族の
志一々、結婚、投宿の巻の内刊。

廿四日

日

雨、在名古倉の四代亮外、投河二宮共沈
 二宮、又、廣井一、二、三、を投す、海邊武
 治、中、系、治、久、保、貞、書、画、帖、三、揮、毫、を、法
 外、皇、命、武、男、と、し、未、簡、十、一、時、出、游、白、木、庵、の
 如、性、展、覧、今、と、見、甚、兵、衛、三、面、取、す、を、信、甲
 勅、諭、五、十、年、以、念、を、と、き、若、の、兵、士、若、幼、お、と、乘
 合、或、十、の、丸、行、杖、上、宮、三、翔、揚、冊、兵、原、平
 と、未、簡、

榛原製

二十五日

晴、皇、命、武、男、三、返、河、を、投、す、楠、瀬、日、年、故、墓
 碑、果、字、據、大、稱、本、持、冬、前、皇、后、白、日、文、休、近
 若、日、家、刻、新、解、を、好、ま、し、於、此、を、兼、す、
 中、後、文、の、世、を、訪、ふ、名、家、印、三、顆、と、観、古
 於、此、を、辨、心、得、し、ゆ、る、狂、詠、翻、後、意、と、入、り

二十六日

晴、内、邊、邊、身、訪、り、し、や、松、毛、羊、を、典、不、政、上、所
 於、こゝ、注、射、を、受、け、馬、元、家、と、の、葛、原、問、題

和解を執す、島山本三一二の畫物と流し
来日、久保貢の塙、座し者画枕と揮毫毛筆
河原村後流し、之文廿七回、心の法要菓子
を焼く来日、午後外出、上野村春軒の庭、是
会堂、懸ふ七回了。

二十七日

晴、十時、山遊、銀生の骨董店、三四の十
品、骨董と辨心、ついで徒少、午時、神楽、改
の田原、酒飲、七切、去、み川、流也、よ

り来日、午後、許、見、め、取、り、流、し、を、集、め、す。

二十八日

小雨、朝来、流、し、を、集、め、す、宇、波、美、宇、尾、也、流、し、を
来日、日、不、音、の、祭、を、定、め、七、集、め、す、飯、打、後、流、し、投
前、十、時、の、是、に、座、す、河、原、村、春、軒、の、島、内、後、三、本
流、し、を、定、め、日、流、し、二、返、印、三、つ、き、三、四、更、に、流、し、付
久、保、橋、に、押、是、の、寺、画、枕、交、付、木、村、川、宇、波、美、也、而
こ、物、作、書、名、寺、の、抄、物、と、し、て、指、師、の、筆、作、所
實、地、伊、波、彦、富、神、社、の、紀、三、冊、流、し、付、七、谷、川

成也の、一角山人と久米山人とを讀む、午後一時早
大に柱けり大隈元辰十年紀念會に臨む、定刻満
員と報ず、出版部とて國民の日本史二冊記
本、日本石油令社とて配南刊の、赤宇下尾港よ
り来出、五月七日個目版創始者堀健吉祝賀
今の通牒列る

二十九日

天長節

時、朝来能原と兼夫、和田純来、後、骨芝、並
の、是武、二、來、の、小、高、一、個、購、入、の、十、一、時、を、散、策

有、不、為、る、り、の、函、を、見、る、す、午、後、矢、吹、の、男、道
海、高、森、の、長、め、を、傳、へ、る、未、の、置、酒、款、法
處、入、り、を、去、る、堀、健、吉、長、節、式、場、に、爆、弾、を
投、し、る、函、漢、あ、る、白、川、大、功、重、光、公、使、等、重、傷
を、負、ひ、る、電、報、刊、り、

三十日

時、森、脇、と、折、き、敬、慕、會、の、を、電、文、今、生
余、使、用、の、内、二、ろ、田、森、脇、に、交、付、松、平、原、四
を、未、出、印、字、と、代、り、田、交、付、龜、山、業

三つと四つと名の画幅と辨ふ午後雨あり、教束
文行巻二首所分の白業歌留三冊を
得七つあり。

五月

一日

昨朝来旅宿とありす、楠瀬日年、之状をいふ
紙後宗家中務和土田秀大印より余が五千公
明石の田地収獲未計米書を送り来りて酒

迄或次印より物焼し居し書書山紙に押蓋
紙茶平しと魁の味噌漬を寄せ来り、土田
秀大印に投簡、午後教束所寄の茶花の
肥料と燈の今の集書温書、初夏耳を叫
ぶ後園の茶花成る、いしく、能徳と曉漢
しと夕めし時とあり。

二日

昨朝来旅宿と筆書、武田尾吉来旅山田
心腹知本二冊、哲帯未訪、名元夏司より

来出、大坂家より寧静閣待文集板木三
十七枚あり、其の請ふ畢り出故部の庫に預
く在二つき大板花紙より海老列の、小久江成
一斗取、午後七時程を兼り、供又来り、散策
日本橋銀座あたりに歩くと、ゆるゆる、新橋の
段茶平の海老と兼り、藤田旅館に泊りて、翌
の塩漬と送るべく托す、楠瀬憫らんと来り

三日

晴、才一りの支店、定期預けの三千円先

棟原製

月末より初限につき、更しく、千五百円と併せ
四千五百円の定期預けとす、孰れも同也、預
金引出す、六十餘圓、三千円の利子、釣取
文行巻を訪り、烈公砲銘杯本十六枚、山中
共古、唐花の石黒四十枚、黙と煉少を併し
此分十五圓、初定為、外に三十圓、初定、同
拂入、物書後、旅程を兼り、久保委と
来向、午後亦散策

四日

町、刑来旅取と事す。田下文流より二十一日
辰巳日定念の道知利の、木林脚美村より十日
文の場念とあり件の事云々す。十時をい出午
後御書、不互中凡る廣次飯塚彦次中事
事訪。

五日

町、刑来旅取と事す。木林脚美村より十日
務よりき来訪。豊田火災保陰の記満り
こと更ら継続の約束より保陰料四十元

藤原製

文付、平保無事三申酒井英丸凡間廣流其
訪平保の者ぬ良寛十二指の運面二回す
阪上弘花より注射を施す。十一時外出千
代田飯の園者即美長を觀る。山陽の表
研に就て宇和島の久保貢一問を興ふ
希回英事念より其能成る事行と需の事す

六日

町、飯塚彦次中事塚山平村山秋浦吉
永理英事文より事訪。山陽待橋の延運

村山の為りも、帝國教育會館の事務を
止り、伊豆山に相換る。濱田四郎もこの往
訪の印撮影の字を二枚利未、旅杯
を果す、冬別紙も旅に利り、睦合に隨ふ高田
四甲、海を(濱田と余と席)

七日

晴、氣が爽しく、八時以家を出、志きり、まきのき
千代田館の回方辰、五六の回方を將ひ日本
杉原、酒飲して、八、石在中、古柳、道恒

藤原製本

帝國教育會館の事務、暫く休、休、休、伊
物も、未だ、北、川、行、教、池、者、の、學、生、一、才、の、未、だ、
山、業、一、三、時、洞、の、画、物、を、持、参、春、陽、也、と、有、福
紙を送り来た。

八日

日

晴、後、雨、上、四、の、民、俗、美、術、工、藝、展、覧、會、も
元、の、今、日、に、始、ま、る、と、今、日、も、帝、國、回、り、の、
主、客、の、由、も、株、式、早、稲、田、今、に、去、り、月、乙、子、
と、未、だ、の、事、務、續、行、を、果、す、訪、河、篠、田

旅費を未出の家々へ送り、夕令会を申す。
旅書も漢文時を移す、五時と早令会へ出
き、回方折場へ送り、夕令会へ臨む。

九日

西宮、春日教育会へ曉の原村と出、古井島地
湯沙へ送り、新田家其他の定帖を移す。
古井川渡也、舟渡、地紙、折紙、表、表、表、表、
時、折、印刷の重役等、臨む、今日、成、成、
案外、三、三、大木、林、工、場、を、移、転、し、新、工、場、を、建

る、折、書、案、を、協、定、す、佐、原、伊、助、へ、百、圓、を
寄、郵、送、す、春日、教育、会、へ、多、村、郵、送、折
紙、を、授、け、渡、す、又、的、場、會、の、二、三、入、入、裁、を、二、三
と、試、刷、を、授、け、渡、す、四、時、宗、家、宅、へ、行、き、十、五、日、奥
多、摩、の、打、合、を、考、え、後、山、本、宗、宅、へ、申、す、未、出

十日

時、初、未、既、經、を、兼、す、又、川、本、を、訪、へ、物、を、購
ひ、旅、書、を、改、訂、し、後、七、時、へ、西、京、の、有、職、
廟、中、村、村、長、と、合、意、し、後、三、時、を、定、め、申、す。

文の場合の雑誌に掲載でき余の事は多様
四葉後の印刷を校訂し畢す。今日午前
田舎後場合の雑誌分午後総合あると共に
缺席、午後四時半株式取引所員の為の文
の場合ハ股部七林^部と題して出張講演を為す
今夜取引所関係の校友に招へ、甲早大総
長と共に深川亭に晩飯の饗宴を受く。熊谷
信吉も来る間

十一日

昨入洋連まうじ共演説文章を編纂し以
巨冊とす。そ来る、西村徳大^氏も来る。田中
重正(王老)の訃報。今日九時^頃田舎後
大合を上野井の台社を校訂致の諸君に
ひらく、鳩山文相来場祝しく祝辭を陳が
文部省諮問あるを論議し後協誠吉項を
論し午後日報編纂規定の委員長今井
の報告あり。終つて部合をひらく、今午部
合に欠席し表芝館の周漢文化展覧
会を見つ。夕刻^頃上野井台社に於て

今更の懇親心をひくく来今百花の盛ん
と云起来あり

十二日

雨相未旋を兼す、帝園友會今編輯部を
未出、三者をの我謝秀祐其の若不行中等致科
書中、余の逸業、松の尺紙の一文を採録ん
ことを初め乃ち流す、十時とて園有飯大倉
に歸す、午時山中樵村崎靖雄と共に不忍
池畔に午膳し、亦今城に赴く、數分後和四

法京

萬光に招く、今井費一人今池邊に海と共に
神田川に酒飲して物づく、佐原伊助と系出
入互き多修由決る、庚の中浦市に事動不
しと五十分頃甲地収獲四十畝田又是を中津
市次中しと物を貯り来り、古森村園を以
て作し木以七、春城漫海を貯る、

十二日

雨相未旋を兼す、帝園友會今編輯部を
未出、三者をの我謝秀祐其の若不行中等致科
書中、余の逸業、松の尺紙の一文を採録ん
ことを初め乃ち流す、十時とて園有飯大倉
に歸す、午時山中樵村崎靖雄と共に不忍
池畔に午膳し、亦今城に赴く、數分後和四

「夢後」曰、定分と欲布すまき二十部印刷令
此を利素、散策中、ウラニ制衣石利禽獸
の玩具三個と購ふ、日本郵船令純と
未牒、三川の作、探済、未り、獲、可、美、の、里、の、市、志
と報す、冊共吉男、身、の、四、氏、敬、慕、碑、刻、成
り、拓、本、到、未

十四日

時、彼後、加茂田下、汲、況、と、鱒、を、尾、到、未、令
田、田、原、と、自、心、の、限、知、衣、水、滴、を、照、と、施、給、也

筆、才、田、安、理、五、と、未、公、午、後、自、動、車、を、飲
め、と、移、嘉、堂、文、庫、ハ、比、多、入、摩、子、郡、祐、村、已、本、
あり、同、原、の、宋、政、を、書、史、可、令、日、人、と、共、と、受
つ、酒、飯、の、饗、と、受、け、海、軍、の、物、宅、久、保、百、の
リ、海、と、列、の、亦、松、島、を、照、り、未、り、善、本、新、稿、
配、本、長、浮、規、矩、也、と、錫、公、事、北、与、助、
教、け、る、外、典、の、翻、刻、と、題、す、る、パ、ン、フ、レ、ット
を、照、り、未、り、不、在、甲、冊、共、宗、吉、身、也、

十五日

日

昨朝未だ報を著す、田下政法も未だ印
刷令に大出の場多員人塩坂淡中印を来
出、田下政法も酒也を著す、法朝陽物候も新刊
四割要迄配本、午後研臥施也を清む
夜、今、勢、く、き、二、二、一、大、行、支、那、外、に、二、三、才、に、着
表、さ、う、大、暴、首、お、友、部、し、程、七、五、人、の、亮、漢、の、乱、入、
今、七、五、傷、由、大、臣、七、龍、の、り、得、無、子、整、て、秋、在
界、二、政、友、今、本、部、七、龍、え、ん、皆、爆、弾、を、受、け、
る、為、の、荒、干、の、勢、傷、者、あり、陸、軍、将、校、日、本、兵
行、を、慰、み、ら、う、と、の、報、も、あり、深夜、内、閣、會、議、

東京

陸海軍令派杞醫院令、派、オ、オ、オ、オ、オ、真、こ
恐怖の一夜也、十二時迄、一、二、三、大、故、送、の、報、
の、報、を、聴、く

十二日

頃、今朝の夕夕を測す、大暴首お、吐、危、遊、也
か、高、橋、花、お、首、お、重、振、勅、任、暴、漢、ハ、活、海
陸軍将官、フ、ア、レ、シ、三、革命、運、動、と、見、ら、
昨日、報、市、の、こ、う、は、の、こ、う、と、証、す、
著、す、氏、家、通、書、の、四、子、死、去、の、報、あり、丹

吳宗玄とて来出、東株立命停止の節お出づ、
森岡美村来出、敬奉碑陰幕のうらと打合せ
てあり、午後支行書をと訪せし二の回書とあり
ゆゑ、

二十七日

時、村崎靖雄久保支に投簡河舟長後美
木十畝とて来出、阪上弘花とての注射と受
く、塚谷美田命の年次回考被攝合、對徳川家祈
禱の件このき云々とあり、十一時にも淡刺塔

物被にあり、向上合の移り合をひらき、電燈
料納付、こゝの油律の来出、敬奉と兼し時
を移す、

二十八日

時、相来敬奉と兼す、和田萬支淡刺塔相
被に、とて来出、武田八毛支、年次被、新沼寺
校、四時被を内着、久寛村崎靖雄、一寄
す、大井費一、も同、百中、十月也、敬奉
引出す、荒木十畝の讀書、今とて、今、病

上野公園内(東京府美術館)坊内二十畝と
玩し上野動物園午後七時迄、新皇
親加路通次とて四五の近刊書を贈り来
り、関大中にも来出、直に奏出を乞ふす、
六月一日若木十敬款(今)の通(勝)利の
大段の土屋元正死去の報あり、亦後醍醐正六の
訃三振す、

十九日

朝来雄深と筆す、朝来大拝除、元公の
廻り之報を漫歩し日本橋に午捕し、二

時生犬巻前首相・生公式、臨去、式場の
官邸也、

二十日

朝来、朝来雄深と筆す、森脇美村、若橋
度路の山崎楠岳、酒二瓶と贈る、十
時と出、散部、利り重役今、臨み決、并と
御定、午後五時、久江と、河の今、坊、る、る
堅、忠の、子と、協、誠、す、今、深、委、海、く、く、来、出、
出、散、部、く、く、漢、務、回、字、解、配、本、組、測、行、也、

拙志西園寺元元困惑

念一日

時、相末旅病を養ふ、新江藤田旅病、注文
の鯉塩漬五升、枳利来、湯を煮代、相末注
意都、能谷信来、此を交付、理取、松の
縁を福と為、植布、各二人、来、小林、堅三、園寺、旅
病、相末、旅病、是、念一日、相末、湯、村山、請
唯、相末、尚、且、江馬、細香、の、古、尚、を、好、相末、
福、田、旅、病、く、者、尚、を、志、す、如、此、相、二、日、

出とも、五、五、十、の、記、取、獲、二、つ、き、土、四
秀、大、と、一、投、間、五、時、本、也、田、下、元、流、一、行、以、新
江、号、校、時、代、の、同、家、今、と、臨、み、余、の、口、校、口、校、後
を、来、今、者、に、領、の、口、友、南、軍、一、部、谷、川、朝
三、郎、大、井、真、治、木、枯、田、三、島、阿、木、田、安、平
樵、木、崎、者、為、才、来、今、一、席、上、押、主、也、夜、三、八
り、兩

念二日

日

相末旅病を養ふ、山口、梅、忠、守、三、八、日

在付ひしより、家老の名家者、間十数色、指乳
し、のをあらす、南義三、中、校に、献古、来、治、主
婦、之、友、社、員、来、り、余、が、返、因、と、撰、罷、す、午
後、夜、東、以、右、の、物、を、婚、ひ、を、物、く、こ、又、能、候、を
筆、下、し、七、時、を、移、す、但、閑、の、大、命、高、倉、之、美、と、降
り

念三日

昨日、朝、来、能、候、を、兼、す、殊、も、ま、代、松、と、
来、出、植、木、屋、二、人、来、り、十、時、外、出、又、川、井、に

於、て、秋、月、能、樹、の、小、止、一、幅、を、少、も、物、く、外
出、中、藤、山、と、筋、来、酒、午、後、研、所、能、徳、を
讀、み、ま、七、代、四、十、五、の、

念四日

昨日、十、時、出、政、部、の、幹、部、合、に、臨、み、午、後、平、宅、を
日、活、印、刷、し、し、松、き、今、代、の、件、に、つ、き、内、儀、山、中
推、し、其、等、漢、木、彫、入、物、既、具、を、寄、せ、来、り、不
在、中、西、村、其、法、其、功、に、最、ラ、じ、才、に、放、さ、せ
る、大、隈、七、侯、と、題、す、る、稿、文、の、場、合、の、二、二、一

ハニ指載りしき活版校正を為す、板本藏り
つき来りて旋ねを筆す、以て天皇御集を讀
む。

念五日

昨日、朝来於座を筆す、武田宅在りて校
木居二人来り、敬慕分即利分此拂千五百
日不知年と名す、徳富中野峰、皆由在
花ニ郵也と名す、午後更の巻を記す
夜亦亦祿年間田巻古文牒二十四枚を得り、
之曰大江乙亥来稿、早稲田中巻と決り

葉原

書刊る、妻代四と自覚の給うき了んハム二冊刊
来、森田宅にゆき来書、西田下文流と来
間、宗家と、野菜と、好来と、組関成。

念六日

昨日、朝来於座を筆す、田下文流、前
夫、山中推村吟詠、郵也と名す
板木居二人来り、故吟巻、御肝脆、癌、羅、
絶世と名す、名母、見、赤物と名す、以て天
皇御集を讀む、新得同書録と名す、以て天

皇聖蹟法を定めてあり。午後散策、記念館に赴き、
を拝む。午後散策、記念館に赴き、

念七日

時朝来散策を兼す。是利時代文状二十四
裏打をしてアムバムに貼りにし。明治天皇北
極聖蹟法を讀む。植木君二人来り。午後散策
ゆ未亦散策を兼す。五時より早稲田中
に到り、其の新築校舎を見。社員會に臨み
決算、豫算を議す。今夜社員と共ニ幸す

二晩を共に興う。七時、今日も植木君入り

念八日

市坂上散策あり。注射を施す例のこと。車
月廿日回考散策、同日へお換、厚木町、鎌倉
道、念八日の如し。亀山寺に参り。寺内
遊す。午後二時演劇協会の上演あり。向上
會の評議、念八日の如し。四時半、蓮花
寺に到り、大隈家墓域内、團氏墓、奉
念の記念碑の除幕を行ひ、大隈侯に献

生の式を奉ぐ、大隈侯出席、敬慕令々美
行系より参列、予式辞を陳ぶ、式後一日
陶々亭に到り、慰問令々をいらく、宇尾侯
侯より来也。

十九日

日

所收本番流馬より来者共、福生命保陰を刻
庚金十八山七十三、秋利来、平山堂より来、
者画大目録利来、出滋三紙のゲーター、百年
紀念展と祝、日本橋より、河合より、也。

午後二時、本林田電、此方ある、其時、置酒款
時又、刻別、有橋、互、序、来也。

三十日

所、森岡美、村、其、時、秋、此、方、有、其、也、
く、九、時、外、出、各、家、数、来、非、亦、改、の、田、原、侯、と、酒
飲、し、之、ゆ、く、預、金、を、其、の、外、出、し、月、末、家
用、を、亦、亦、其、の、外、出、し、来、岡、亦、森、岡、電、
中、に、出、也、也。

三十一日

昨朝未だ終極と筆す、内中較尋とて、定取
書目と筆のともあり、恙木陸打とて、詢也利
日、市山房とて、島内後三月あり、留客當日
法三四二巻迄印、更らるゝ五二冊を貸す、
の況吉流金子元佐とて、中等教科書と
余の隨筆とて、二篇採録のことと申一紙す
十時より、田小久江村の多印刷人より、此并に出
政事の人事と、就き協議、午會を共うして
おつ、市山大隈家とて、特製衣の白鷹三大瓶

藤原製

と取と、金子元正の内中較尋、高橋直彦と
同す、自撰書録、才五冊筆録了、夜未の

六月

一日

向、朝未終極と筆す、山の内中較尋、功補志本
配本、臨時湖合開合、小久江村一合、此の人多
二、竹井功野と、柏木潤三、未流、神郡敬三と
未書、四時半、芳谷の志、田原、三、引り、恙木十敬

令に臨む、此令十畝にやふ口とて由相を祝す也
十畝押其の画とて賜ふ、富令後十畝詠
中の活動字とて凡十一時散令、由依
信哉とて香魚と寄て来り

二日

時武田尾末来り、令津八一とて子と貝葉の
名刺を賜ふ、克日付外出日本橋迄、物を
贈心甚兵衛、物とて、不在中、桐山均一
来り物と賜ふ、休為行哉、物とて送ふ、

棟原製

雜書と候ふ、湯、利、三山、田、倉、令、(十日) 衆
内利、

三日

雨朝来、遊樂を兼す、小久江、其一日、由令記
人、子、の、大、内、流、中、武、田、信、吉、出、於、那、日、仲、
の、大、其、取、十、時、已、次、北、香、也、高、田、早、花、
間、す、午、後、旋、後、物、と、物、七、経、畫、經、海、梅、を、讀
也

四日

天の豪雨未、朝未旋程を兼ず、厚本早中
幹も来訪、今午八二、投簡、江島館茶平
〜毎、おと送り来、午後文の書に
到り、佐波、夏休年方の公文一冊を贈る
ゆ、丹其、字まを来也

五日

日

時、小雨今朝八時、新島、利り、野を回、古飯、日
人と、落合、八時半、小田原、急行電車、の、厚

棟原製

木、何、行、和、田、松、本、今、洋、大、田、林、塚
谷、竹、内、林、小、木、と、余、十、八、お、模、川、：、秀、魚
と、漁、も、ん、と、す、也、厚、木、ま、か、約、一、時、る、こ、し
達、す、荒、松、尾、：、坡、し、小、旗、の、後、棄、船、
船、中、ま、し、あ、今、を、ひ、と、も、時、の、立、勢、あ、る、し
舟、濁、り、水、量、七、倍、し、あ、ん、も、川、を、瀬、つ、の、船、頭
網、を、以、て、曳、く、北、河、多、摩、酒、匂、二、川、の、中、間
？、在、つ、て、茅、ヶ、崎、に、注、ぐ、下、流、を、馬、入、川、と、稱、す
敷、田、網、を、卸、し、て、荒、干、の、香、魚、を、得、し
ん、ぶ、ら、を、心、り、て、飽、食、い、干、後、三、時、に、船、中

又存、御後切束の途に就く、土時御毛

六日

雨、武田尾先、廣本義章、細川吉永主人
未接、旋報を兼す、館恭平に、尚書前島
男末活印刷令比監査役辭任の中出あり、
病氣の苦み已むを得ざる才也、由子歌島伎
座へ行く、土時紅葉坊に到り、睦舎、路、高田
松平(頼壽)流迄、増田丹子令、赤木新七
(古本松岡同古(波長)も未可)

七日

雨、小久江甘二子命登美友七、松改社秘を協
議者の方にて、段上とも例の注射を多く、
林葵未久とも、若、以日本建設の原理をも
定めし、有田平菊、今此人多る、(念)
技簡、午後旋報を兼す、三時華族令終
に赴き、支那場令の例令に臨む、田中却先(特命
全權大使)とも満洲團家、聞する、祝祭秩
を聴く、夜に八分、其為桂次令とも使を以
七穀の味噌漬を賜り来り、由の午後耳功

の約、小柄望三と来也。

八日

朝来船程を兼す、時久以て命と協成
の前時問題を電報を打ちて打ちて只族
流を以て前島と和む、この流を以
坪内と訪問時流を以て、平野文江
と電報と交換増田義之、技師、片山利
久来流、早大師範を以て似内流を以て書道合
ニ出席望三と求め、廿日迄出席と約す

徳原製

二時迄真流柱の中、且つ置酒して時事を談
す、刻別、前島男院や舟の舟物を以て
来り示さる、是より親学大隈を以て、

九日

時十時、時印、金地、重信、今と踏出半季
成績、頗るある、午後、山田、山田、山田、
船程と兼す、船を以て、船を以て、
月信を以て来り。

十日

朝、朝来龍泉を兼し時を後、高村真天未洗
註と給を兼し主人龍谷信夫耳法、山陽の遊吳を
出し、其履を問ふ、高村山心を堪く来り、亦高
村打も、杉橋川の香魚を好む、午後二時、安田
善次郎と訪ふ、山崎の園公をえり、又、刻辭
し、借生園に赴き、馬山回室亭に歸す、日本
園有、飯場合、理多舎の通、條列り、十四日、宇士舎
飯、廣島市長伊藤久次と、謝表列り、夕方の
馬山回室亭出席、馬山未立、原嘉造、高村龍

藤原製

彦公在、杉木弘壽十一人

十一日

朝、朝来龍泉を兼し、備中玉崎田尾寺に往
職、石井戒全と、良寛碑、除幕式のある内状
列り、又、江真一社、松三の来訪、早大の副幹
事、大崎正一、馬田前、徳吉、兼大隈前、徳吉、銅
像銘、選文を余に、囑す、又、早大、午後早
中の校舎祝賀、人等、臨む、又、祝辭、演説の稿
を、及び、午後二時、中学に、列り、中堂校長三十五年

勤勞并迄曆祝賀令に臨み一坪の湯説をちり
昆田未亡人の出中より、所得を全額決定
書税額不足に別、総額一万三千九百十圓也
深更に、この族の義徳死云の電報に、

十二日

日

時、朝来旅館を兼す、潤三乗じて之と共に出遊
に、勤勞也と嬉し、時、車一を、林の時計店に
依頼、白布巻、拍と嬉し、甚兵衛、酒飲、七
角、寺崎元重、手訪、閑、得て、酔、臥、

藤原製

十三日

時、朝来旅館を兼す、加賀、建、三、中、自
家、為、集、團、者、目、録、を、寄、り、て、外、の、木、也、旅、館、
進、陣、館、と、淡、石、十、時、と、出、政、部、の、半、季、
総、合、に、臨、み、本、季、無、配、高、平、の、受、け、付、金、全、
八、百、四、十、圓、本、日、全、額、を、四、掛、海、文、の、巻、に、七、十、
圓、掛、海、由、子、主、持、百、圓、掛、海、今、田、各、原、来、積、
積、貯、甘、藪、織、五、五、二、八、七、(遺)子、裕、之、三、市、州、を、寄、
り、(金、十、圓、為、掛、入)

十四日

雨、朝来旋風を著し、十一時迄を伴ふを出游、一二
益哉と嬉んでゆく。内山有るに未書、午
後研臥、夕刻しよ説を復し、深更に到る

十五日

晴、武田居去来、山山素二、可耳、外出、細川有居
を訪ふ、幼定二十六日、十時、別と蒙古、森、
河井、本、三、遊、十三日、拂、海、史、文、の、を、と、の
ゆ、二、三、の、を、と、嬉、んで、ゆ、く、午後、又、不、説、を、讀

榎原製

あ、早大、學生二人、来り、書道、入る、余の、研讀の
日を、廿一日と、定めて、ある。

十六日

雨、朝来、旋風を著す、久江、吾、坐、来り、今、此の
要務を、編纂す、改上、此、為、し、福、防、注、射、を
受く、龜山、素三、中、林、栴、叶、の、遺、印、三、顆、
椿山、田、花、の、友、子、圖、畫、山、依、三、冊、を、嬉、んで、印、代
三、十、四、拂、海、政、況、継、来、此、を、定、り、行、を、需
め、来、り、午後、伴、ふ、を、外、出、此、を、點、釣

りの方を將ろを均くす。

十七日

晴、早大の出版場へ委員二名山田清比と在り、出版
誌七冊有、彼場へ在りて長松本長一徳川家の
問題うへき事、而村真次藤田と敬亦其
訪、十一時出版部へ到り、委員二名を其場へ午
後控室を兼り、時を移す、三時迄在り、未訪日
家の銅像刻数、就し内話して去る、夜に入り而

徳原製

十八日

雨、武蔵田の方を流す、武田尾克森
昭美村来、十時日活印刷会社へ到り、社
員二名を其場へ、後二の事を協議して、而書
走をばあへ、外出、近生井美に飯し、三網の友
福祭、乃西洋行、陣列、意を見し、ゆふ、控室
と兼す。

十九日

晴、境内を過り、道南、甲六へ、と来る。

旅費と筆す、田村在二ヶ一身上のこと入り
未迄、午後先高松易三女姉と成り、赴く大隈
侯進陣部と二三既族と郵夫あり、三時字家
の徳志合三路あり十二人會合

二十日

昨村山、龜嶽山中推し、未書、市島反松と楢
枕を寄せて来る、高田前、徳長、柳徳の事、このまゝ今
朝九時、高松、越海と好ゆき、遠を這ふ、坂、淡
し、後旅費、この日と考へ、旭登、後六時

徳原表

の汽車あり、地蔵、川瀬一馬と未書、候
内、織製心手長、株三個と贈る

二十一日

昨、朝未高田前、徳長、母、知像、建設、功の
ス、テ、ト、メントの稿を以り、郵送す、定
金石、二の事、の、計、利、の、事、市、田、教、育、に、法、
入、余、の、切、時、号、校、の、也、ひ、出、を、掲、載、す、
能、報、を、筆、し、時、を、移、す、大、塚、松、と、未
書、龜、山、書、三、軟、鴨、尾、の、詩、稿、を、持、卷、定

全二帛書を返す。午後雨。午後外出新橋。芸文
数種を携わ。野見祐輔の「説子」を讀む。
時を移す。市立三印を来す。村山ゆき地
もも書画協会の題名をよめる。

二十二日

今晚喜家の一過。後原朝ちり森昭と共に来り
文の協会に満参研究部を置くことを協会の
九時半迄較べ長き地帯あり。坂上弘花より
注射を交へ、村山秋海の爲頼書一巻の書物

藤原

の画面を題す。秋滿其訪三付交付。真山
桂次やもと来り。雲集の書物を嫌ふ。云
山好玉島田通寺。良寛建碑記念。給
たうき冊子等を寄つて来り。三時半大の講堂
に學生の有志(合)臨み手紙。就ての漫談
と試む。約一時間。毛利宮彦より来書

二十三日

晴。朝来遊園を輩す。金子元匡を来
書久保をよめる。秋雨の日をよめる。客を来

九時出遊、上野、淡路、教養館、生、物を贈ひ、途中
午時、七、由、電、後、所、森、脚、美、所、廣、本、義、章
等、來、派、方、道、合、々、所、物、未、々

二十四日

時、能、所、を、華、才、一、帝、國、教、育、會、々、所、物、未、々
増、う、來、々、十、時、日、清、印、刷、會、社、々、於、七、時、香、子、徳、心
を、開、き、八、分、の、記、高、を、決、す、余、の、記、高、六、百、二、十、五
圓、也、當、其、七、百、六、十、二、百、七、十、七、也、今、後、後
重、後、合、を、い、ふ、々、一、所、也、其、内、界、々、香、子、の、増、給

香子

を、決、す、台、湾、の、章、極、々、及、物、三、部、又、五、時、子、香
改、田、所、白、水、々、の、清、印、刷、の、章、後、合、合、會、々
合、を、い、ふ、々

二十五日

時、朝、來、所、所、を、華、才、一、帝、國、教、育、會、々、所、物、未、々
死、云、々、付、吊、状、を、贈、す、武、田、尾、吉、皇、道、合、々
の、須、藤、新、子、香、子、日、本、橋、の、三、女、友、所、の、々、々
を、衆、一、二、三、拍、を、贈、合、々、所、の、資、生、會、々
飲、し、物、所、所、所、を、退、山、家、尾、橋、上、十、五、圓、十

一、契以上謝絶百五十回内あり、交付外、
至六百回月未動定内至内あり、交付、
月未動定の縁養を心、福澤泰江の清溪
窮通の全回者村の定おを讀み、西川太次郎
とと来前、四時以上絶ス、一、橋上合
巻に於て文の協会系、山端織道、佐治部
と共同の清溪合をひらき、余洲合の挨拶
を为り、聴者堂に満り、文行を三五寄三三の
圖書を解め、ゆくり

二十七日

日

棟原製

時、杉谷文圃の刊行、帛状をかき、巻紙を
筆す、竹内長右衛門、謝絶に表り、ロンを絶
く、此本秀ありしとてしつて一の役ゆゑを寄
せり、東条の逸く、とて来也、小林三斗、清閑
に、兼して、明次天皇御集を讀む、山本常
太郎(名義主人)の刊行、二庭前すべしと
右邊を挫く、其痛を忍ん、陶々亭、堀江丸
萬一、松本齋、後藤朝大、大隈木精、陽と合
し、文の協会、の多きを協流す、山本家、足部
又、千当を为す、虎子、漸かく、其、為、減す

二十七日

晴、高森流吉来の山湯遺物の箱、影成を
心の山田清久、龜山素三來り、高田半吉と電
話を交換す、十時字家天婦、牛込、千代を供
す、午後夜分をてえへて寝る、吉家刻家木村翠
蔭吉田の信ありて来り、不遇、夕内田貢の追悼
会あり行かず、歴史回廊五郎剣道

二十八日

晴、西川太次、中東春逸、巻巻をなす、田村

徳原製

壮二、今五、同文、柳瀬日年、下村山、亀嶽の
為印利七頼、勝山、泥も多かり、支店長、吉田の
校友会、つき来流、甚本、書影、五編七輯、紀本
皇百、田月、末拂の由、内人、と交付、午後、田中、徳長
より電話あり、是疾をつり、とめ、流刺、埃物、破、
田中、折ゆ、と今、吉田、前流、吉の、御、原、山、題、二、付
内、磯、保、七、十、月、早、大、文、典、の、刊、書、二、つ、き、来、流
七、多、計、三、時、物、毛、今、夜、粘、巻、行、日、政、府、
入、り、校、友、会、報、侍、の、会、多、病、の、為、め、入、房

二十九日

晴、中元普用として二万回叩き、其の京都
便利を乞はし、襦袢を沱羅尼住持等子を贈り、
河内金剛寺に其原を花し、其原二年
頃、今板歌を考し、及所々、経し、等よ
り、朝多し、臥し、籠也と、漢也、森島夫よ
り、鳴門若布を、定り、也、等、

三十日

晴、朝来、籠也を、兼す、頼三樹の、昔、おを、贈り、

藤原製

曇山、言下、三三、拾回、拂、四、中、不、大、総、去、し、も、今、
朝、高、田、方、河、相、縁、一、件、解、決、の、事、を、報、じ、
来、り、三、者、（中略）、因、解、百、種、辞、典、才、三、冊、を、寄、
せ、り、又、午、後、亦、臥、し、籠、法、を、讀、み、た、き、七、旋、
經、を、兼、す、又、岩、休、甚、大、り、の、計、利、の、三、上、芳、直、
も、と、来、也、

〇
七月

一日

晴、朝来、籠也を、兼す、中元のおを、齋、し、一、大、

隈家列郎と遣ふ、来春迄とて来出、中津殿一
 来法、中津殿に英世記念被成重二のき、昔は人勅務
 既刊、穀三掛の文書好表装に古津方、老
 寸高在、庫中、木林脚、美掛、耳、赤、森、隔、く、る、白、文
 付、故、奉、合、殿、主、の、向、後、押、満、去、一、山、山、力、の、馬、内
 後、三、耳、功、物、を、贈、り、岩、休、美、大、中、氏、去、一、の、梅
 状、を、書、す、中、津、親、義、の、計、利、一、四、香、外、出、之、念
 静、去、中、の、家、午、後、出、遊、元、の、為、殿、个、装、指、輪
 其、他、を、贈、の、之、物、一、午、後、一、雨、あ、中、津、親、義
 遣、族、一、吊、書、と、書、す、木、林、家、文、一、河、也、と

農事、被成平、耳、功

二日

風、美、刺、家、木、村、の、早、薩、才、功、十、時、出、殿、新
 の、幹、部、合、に、臨、み、高、四、と、大、帳、合、致、と、午、後、
 其、の、す、午、後、村、口、書、店、と、ゆ、り、考、物、功、也
 七、十、日、早、美、掛、殿、之、外、書、に、程、高、の、御、役
 山、形、を、得、也、也、之、休、美、大、中、氏、去、一、高、森、庫
 四、中、一、も、来、也、間、不、在、中、坂、永、備、三、耳、功
 山、形、の、河、也、徳、大、中、氏、一、梅、一、也、也

せまふ

三日

時、相末能保を筆す、大坂の東春迄、
山陽赤松の進定をもとめ来り、
大坂に、前出をよみす、午後銀座に
牧野不切も後、能保と読む。

四日

時、往村宗八武田尾を筆後、能保を筆す、大

藤原製

限別邸ともいふ、
板女帯一巻、
を贈り来り、
簡し、
竹家村の古文書の送印ともいふ、
本林の憲、
文作、
間聽

五日

晴、午前登美と北日とを来談、後上山狩り
リ例の注射を受く、狩猟を兼す、文三
其の午後文行巻を納め二二の巻を納め七
、物巻後鷄肋雜巻に張込をうしむ時を納
す、古位六つとある耳。

六日

晴、武田尾巻と来談、狩猟と兼す、十時お出
立、西山植物を採り、午後七時法を納め

藤原製

五時江島飯、外き、晴、今と臨む、吉田中場田
海迄来合、早大航志研究会と七月九日
生操院を以りて、秋真満海、田沼河元行の
二上の吉も、報を多く

七日

晴、朝来能保を兼す、講法地の囀とあし、一
を婦人倶楽部、寄す、十時お出立、印
地、到り事、安す、午後八時、以味一と能
改、叙し、文の巻を納め、田舎を納め、丹

兄弟が物休毎時五の月長沙、古道今の各生
の為の書志帖押毫、程方を讀み又刻く刊
し、昨未有りし、浦焼を貯る未。

八日

頃、代相米程程と筆す、此年市大吏糾備家
系く前後二回二貸付のた、家倉の古文牒二拾
数本、日戻り未、午後散策、所府、懸あり
遇ふ、二三物を購ひて物下、金を十日、約、較
中入、為内子、不交付、歌目善古、と未書

藤原製

九日

頃、朝米程程と筆す、十時、口詩、即刷合祀の役負
合、臨ひ、赤春、受、と未、午、午後、程、程、と
是、病、為、未、金、一、千、台、南、重、極、他、と未書、
牧
唯、物、出、し、と、自、撰、法、後、氏、念、祖、碑、拓
本、と、貯、る、未、と、九、山、難、也、と未、問

十日

日

頃、歌目善古、山、田、古、心、外、出、部、負、中、元、の、礼
と未、又、人、を、備、れ、程、考、を、刈、り、庭、園、を、掃、り、

大塚信の爲め揮毫。奥四宮。爲身坊。十元の
換抄の物を高くし来り。此の相誣く。夜未
雨。赤馬御風の裏の赤州。

十一日

雨。朝未。能保を兼す。武田尾。支梅。源日。年来
河。村山。秋。浦。踏。て。来。り。う。中。宮。殿。の。意。入。寺。前
一。并。二。小。野。葉。山。子。を。焼。ひ。入。り。大。坂。の。東。春
途。と。一。向。を。兼。す。村。山。尾。一。向。を。托。き。え。り
物。ち。印。二。顆。日。年。一。卷。刀。三。付。郵。送。杆。倉。六。四。印

棟原製

方。二。鏡。姑。身。祝。儀。四。十。回。文。出。午。後。能。保。を
讀。み。時。を。移。す。中。宮。礼。四。印。を。兼。す。東。向。大。深。然
子。尚。記。傳。長。の。件。二。つ。き。云。り。し。事。

十二日

内。相。馬。御。風。の。布。杖。を。兼。す。中。宮。禮。四。印。を
兼。す。を。兼。す。城。高。の。ま。く。り。二。枚。表。目。尾。三。集
壯。衣。を。托。き。十。時。を。兼。す。大。塚。合。領。二。枚。出。版。の
の。幹。部。合。二。信。を。午。後。沙。翁。意。便。殿。の。件
二。つ。き。武。田。と。せ。二。坊。内。通。送。を。兼。す。所。に。訪。ぬ

乙協議 片山利久 校訂 了未 協 洋の中
の松井身 小功 寺 元重 唐墨を寄也
の 込 役 石 電 地 租 三 十 七 四 九 十 三 八 一 七 中
一 期 分) 卷 十 三 四 七 十 八 製 府 稅 市 稅 一 七 年
の 寄 納 金 徵 集 列 示

十三日

時、暑熱加い、故集日本^格の物を購ひ文行を
二回方を辨めしむ、午後武田尾を共ニ寄
回し、沙留全集の件、今此職久下年

ホニハ七の内、秋七妙、秋九を筆す、午後
又由方、東春迄も来者、喜代四来り、矢吹
并ニ由方、物を購ひ、所得稅徵集列示

十四日

時、春湯をらし、本草「劔」刊、鄂出、余の
寄、福登載、日本書史、寄、今も十日、安田
方、今、今と通、ト来り、十一時、克を付、少、所、有、
利、り、一、二、物、を、辨、め、十、村、名、洋、金、を、與、し、市
都、府、比、六、室、の、元、十、三、二、二、一、七、を、納、り、由、書、後

旅船と兼て、酒を(或は)白葡萄酒
今津二一と白鷹到来

十五日

朝家兩一過、堀部久大、大隈延子、力自の
倚池を以て、日編を考せん、其の材料を以
て、名集のつぎ、其の由時、後く、去る、
旅船と兼し、山午と到り、午後旅船を兼し、
時を費す、電山、三二三の印を持参し、又刻雨
又刊、雷鳴り、故本、嘉治馬、未書、十九日

榛原製

帯盤倉二振る

十六日

兩朝未旅船と兼す、山中樵、今津八一と兼す、
皆来、バラウくの古文書と、アムバム二張、(一)み
あ、の、敷、理、を、さ、す、午後、女、の、書、大、吹、り、方、以、書
志、是、今、の、書、を、つ、き、路、席、一、新、書、出、版、一、年、後、の
比、念、と、終、并、に、比、念、法、則、が、三、つ、き、協、議、協、議、協、議、協、議、
七、通、一、方、而、津、り、つ、く、七、字、に、三、卷、と、兼、帯、安、の
二、ホ、一、終、り、七、つ、く、

十七日

日

向、冷、朝来旋縁を筆す、古藤記とて、碓氷丸母
とて、先々、短く、短く、懐剣と物、一、未、四、守、三、分
左、銘、大、和、則、長、十、時、供、ん、て、先、日、付、出、遊、給、生、
物、と、情、心、資、生、を、二、飯、七、物、と、石、塔、と、中、と、
酒、二、瓶、を、贈、り、来、り、

十八日

而、朝来旋縁を筆す、武田尾去、東洋史料
研究会、の、甲、乙、未、述、中、村、亮、道、外、一、人、来、訪

東京製

不、通、午、夜、交、行、を、と、ゆ、め、二、三、の、回、を、編、み
七、時、と、八、時、と、筆、す、時、を、移、す、ア、レ、フ、レ、ッ、ド、
ダ、ニ、ヒ、ル、の、パ、イ、ア、ブ、ガ、ワ、ク、を、讀、み、碓、氷、丸、母、
立、派、来、訪、

十九日

向、朝来旋縁を筆す、村山愚一、中、と、未、述、楯
濑、恂、母、坊、印、一、款、篆、刻、を、把、す、及、上、弘、卷、と、
り、注、射、と、多、く、ハ、ウ、イ、音、の、横、切、武、能、飯、
彦、次、と、山、田、不、二、日、付、来、訪、村、山、秋、浦、と、山

湯方橋の題画を託さる。横印も果物雜法
一打照り来り。午後生田橋、子来橋、坂本嘉流
馬亡光(洋行中物あり)三年忌、祝、元丸の内亭
壁面の必書合、臨也。

二十日

町出用八武四尾支村山福、此日福、日本圖書
破協會、まゝまゝ、旅費を兼す、村山の為山陽物
題画、水書龍、三、小品古玩を贈り、大石理山
来橋、早速整、由遣子、父の侍を、子あり

藤原製

年、内、内、五、三、三、未、出、散、果、中、央、ス、テ
一、レ、ヨ、ン、公、堂、に、似、し、七、物、を、京、都、の、太、田、総、(江
村) 脳、溢、血、で、死、云、の、報、判、を、整、雨、後、を、後、又、時
を、移、す、

二十一日

町、町、の、身、男、通、加、い、朝、来、旅、程、を、兼、す、夫
己、の、校、方、今、ま、の、も、夫、己、の、支、店、長、勝、治、京
次、中、来、訪、早、速、の、代、印、と、海、書、を、見、す、太、田、虹
村、死、云、に、代、印、書、を、見、す、十、時、ゆ、よ、と、付、け

三冊と物を攝公、淡岩、観音を寫し、川汽船
工を墨江と海り、又ら、淡岩に居たり中津
に飯一七、野口、英世の像を讀む、京都谷村
一太郎の、六冊子、中津、松原と、紙中しと書て未
了

二十二日

朝、朝来、旋縁を兼す、早速、魁山、西像を讀む
午後、文、川、中津を功の、二の、回、巻を、い、し、ゆ
へ、る、赤、珠、未、夫、と、い、道、若、ハ、ン、フ、レ、ウ、ト、と、い、書、て

徳原整

来り、葛城、在、小、休、隣、宮、龜山、會、坪、の、形、溪、の
画、幅、を、持、来、り

二十三日

朝、朝来、亦、登、米、天、の、洗、利、經、湯、を、讀、む、關、之、乘、を
圖書を整理す、紙、信、旋、縁、を、い、し、と、登、嶺、寫、を、送
り、来、り、昂、向、墨、地、に、い、く、こ、の、き、こ、る、因、交、付、
丸山、雅、也、木、村、翠、蔭、其、の、印、一、顆、寫、す、
井、戸、湯、し、藤、棚、脚、折、ち、も、作、り、正、午、九、十、三、分

二十四日

日

明、植木屋より存桐を修理す。春陽中の氣
質亦一本、此の字の福を治ふ、表裏を
二幅一巻出来、干後其熱を忍んじ、
瑞草草、この字の字のき、あ行の収を兼し未
完成也。

廿五日

吹朝未本草、此の字の漫活十七枚を兼
此山田信心より、種知を二紙本、毫山東
三と長井雲坪元深の幅を贈ふ。十時の
光田付出、滋、飯、保、彦、次、中、一、と、子、虫、且、の
物と贈る未。

二十六日

所、系、柄、を、板、面、に、春、陽、を、旋、転、本、巻、に、寄、り、
竹の漫活と本巻の素人観と二幅也。
武田尾吉、鳥羽、赤木、岬、の、為、め、よ、一、稿、を、心
り、時、を、移、す、花、屋、の、今、昔、の、一、稿、氏、の、干、後、旋
転、を、兼、す、先、と、散、策、上、の、杉、政、屋、の、物、を
贈、り、也、均、一、の、又、一、幅、花、屋、の、今、昔、を

其湯をく穿りて、昇今日の如く若地這子へ赴
く、畝目甚ましくも物を拾り来り。

二十七日

昨日若熱をし、池畔の萩花を曳き、旋徳本寺
の爲又一行を告ぐ、堰口蕨山来嶺、若熱
ニ偲くが冷酒を飲んて午し睡、夕めを後旋
徳と讀む、氣管林一とて来出。

二十八日

徳原集

昨日又一行を春湯をく穿り、旋徳と著す、至
港を女子回文に余が飽きずとも若ぬ紙の
一命と標ぬし、中來り、内堂より三
つ来出、文行書を抄のし古云考強のり大ア
ルハムを贈の儀多因也、散葉中央スナリ
ミシ合をく拾りて、拾りて、寺の元重くも塩ぶりを
拾り来り。

二十九日

昨日朝来、旋徳を著す、自抄旋徳石の冊

を整理し支那のハニの納め、有骨莖葉乾
を為す、納め、龜山、伊勢の西村徳
大ら、整理二十本貯り来ふ、午後散葉、
西村徳大ら、来り、来り、来り、

三十日

時、今、天、皇、崩、後、二、十、年、聖、忌、歎、目、美
古、未、書、改、上、弘、花、と、縁、路、注、射、を、受
く、強、虫、を、筆、す、出、版、部、と、三、万、回、時
借、り、を、為、す、十、一、時、出、浴、一、時、切、取、又、強

藤原製

録を筆す、野向、法、次、果、え、心、道、一、を、後
あ、昂、石、日、者、地、と、主、物、

三十一日

時、今、田、市、原、石、塚、と、中、村、山、好、く、何、列、訪、
今、田、と、花、の、玩、具、を、貯、り、午、後、散、葉、上、書
日本、物、を、色、し、物、く、中、村、の、好、若、を、後、と、亦
沢、田、の、日、本、反、意、下、を、法、と、月、末、拂、三、万
五、十、回、

四日

晴、相来遊、秋を兼す、飲全四、事由、出
す、武田尾、古、村山、秋浦、教、臨、遊、中、
遊、運、を、清、く、立、つ、押、毫、鳴、を、立、す、
蟬、蟪、山、辺、
と、未、也、石、塚、より、夏、の、下、女、を、付、ひ、未、也、
電、
治、料、拂、納、午、後、散、策、日、下、於、院、院、後、
時、を、費、す、西、村、徳、大、り、と、未、河、を、遊、す、
遊、す、石、塚、より、石、田、老、い、新、派、社、と、
創、刊、院、
徳、日、の、出、を、遊、す、未、也、

徳原

五日

晴、所、得、獲、財、如、祝、三、方、六、十、四、
納、付、納、奉、湯、
赤、山、岨、恒、四、り、と、未、書、
富、山、の、者、店、と、未、
也、
公、雜、書、を、讀、み、時、を、費、す、
村、山、始、り、相、来、
遊、
物、を、納、す、
宮、次、
死、者、の、つ、き、
梅、状、を、
書、す、
散、策、文、の、書、と、
二、三、の、回、書、を、
梅、の、つ、き、

六日

晴、散、策、今、に、
控、
四、
昨、
交、
馬、
と、
出、
ぬ、
し、
文、
者、
と、
祝、
大、
限、
庭、
を、
更、
々、
出、
ぬ、
新、
の、
控、

刊行元とすうふつさい其の序言を述つ大改を
東春逸来り書畫の總巻を改め旅帳を
し一時を移す午後散策一二回方を移す
ゆへに文三に比れ用をす

七日

日

時方をも視る大隈侯のはしがき互行を
止波部く部上り又亀山寺三ふ雪村極代二十五回
拙め石松三りむゆ岸井壽郎の聯想を股
述すししを漢文午後神田の志原をゆめ

藤原製

二三の圖書を移すゆへに

八日

ゆへ朝来旅帳を筆す暇の空脱退論を
讀らるるあんの燕も新一率其子を名に
来河に乗じて掛物と整理す午後散策
を移すゆへに一茶の七考日記を漢文且
つ抄す

九日

昨日、朝未旅館を著す。勝況文次や中尾校長等
九月四日、今日の子を報し、未の人を傲し、危苦
を戒ふ。新島、沼田、長山、田代、此を未、一茶
七書日記と翻讀、無聊を慰す。小寺、向吉、
「徳政再吟味」を案せ、未の午後、旅館を翻讀
時を移す。昂、廻、昌、地、主、物、の、貧、困、直、況、を
来す。雨来るとして来らず。

十日

昨日、朝未旅館を著す。徳人の教来、此の

藤原製

一二の刊書を籍い、時、美、の、飲、し、七、物、一、又
午後、格、存、成、卯、の、農、村、自、救、論、を、讀、み
時を移す。昂、廻、昌、地、の、物、の、田、代、亮、人、の、
中、國、の、報、に、登、載、の、良、寛、の、就、て、の、自、稿、を
空のせり。

十一日

昨日、朝未旅館を著す。況上、此、を、も、注、射、を、受
く、十、数、日、あ、る、に、池、の、一、半、は、絶、ち、連、り、或、は、
谷、を、絶、ち、無、聊、を、消、す、の、由、を、い、ん、を、坊、人、

又時尚に就て多分の研究を為さんと、日：此の
の近著を併あして讀み、亦日：龍泉と不感とを
知す、偶々：旅行を思へども、未だその計ある所
あり、予之秋の季に入る、此夏に終るゝ家：此
城より、河内桐乃の邸主と稱田義頭山陽の
寺幡五郎、旗本帯鍔宅を訪ふ、皆真蹟也
十時：散策、新庄：飯：しゆき、帰来長
塚節の六説「土」を讀む、颯風吹きす、七時

十二日

藤原製

時、木林、柳、美、村、菊、池、重、言、り、身、法、菊、池、と
其著、歐、羅、巴、物語、を、終、る、時、多、分、段、記、者
後、森、武、鬼、子、未、接、龍、泉、と、筆、下、す、午、後、理
和、友、和、田、為、光、と、未、書、閑、々、雜、書、を
讀、み、時、を、移、す、夕、刻、如、女、七、快、雨、列、る、但
ハ、候、未、候、去、を、憾、也

十三日

時、朝、未、始、程、を、著、す、和、田、為、光、と、接、簡、小、説
出、演、了、品、上、物、一、二、索、部、修、考、虎、友、評

義明の女子は日本後本、余の絶世の中
の今の一番を標記したしと訪求し来る候
す

十四日

日

味相子池崎忠孝の宿命の口米歌多しを後
り出候二三の巻をも精心中米ステーレロシ
公堂に候しと候ひ候ひ也是地へ行く、五
十山交り、池崎の米四俵、二二と送りおを後
あ、後相を筆一夜に入る

徳原製

十五日

味、まふも男枝の息口二の夫い傷を運ふ、台湾
山中推しと重極の家文二の夫い云々の細書列
る、相来米四俵、二二と送り候ひ也是地へ行く、五
十山交り、池崎の米四俵、二二と送りおを後
あ、後相を筆一夜に入る

十六日

味、一過池邊藤日、武田尾を耳指、後相

七葉す、日本の防室」と讀み、十時迄を以て
て分出三紙、物を辨ひ給せと致して留く、
口下の防室」と讀み、武田も物と辨る

十七日

頃今初漸々冷氣を感ず、米圃テグニス大
作原若小海海甲大作海の、日本柿の(し)を讀
ま、亦雜紙と筆す、亦倉庫中ららるる米也
一二斗あり

藤原製

十八日

小内、山中推、高倉庫四印、春也と見
す、鉛り、し、五十四段を引出す、紙高、二、二
物を辨ひ給せ、四、午、午後、午後、午後
紙を筆す、又、山、別、の紙、文、字、を、讀、む、夕
刻、快、雨、也、

十九日

高、相、米、紙、文、字、を、讀、む、九、山、倉、大、作、米
桶、段、上、の、紙、も、注、射、も、受、く、亦、亦、便、利、也

より復物を本井原西物若洋物瑠璃(磨)も
寄せしめる。能成を兼す、午後先を付して
お茶の所、驛(と)有架海の電車に乗
り、ある所に此派を(男)する、いんか如
めと也、ある(と)中央停車場に到り、たじ
ルに物を婚(と)回(と)る。

二十日

豊山田海吉武田尾吉身訪、本日振手の物
本(本)余り、後業二(本)を収(と)い、山田(と)焼雲

藤原製

冊と貯(と)台湾(と)松尾(と)未状、散葉(と)
山(と)刊書(と)海(と)杉(と)ラ(と)ン(と)ピ(と)ウ(と)の(と)
去(と)長(と)を(と)見(と)ゆ(と)く、北島(と)少(と)佐(と)の(と)航(と)空(と)海(と)流(と)
を(と)漢(と)む、日本(と)回(と)考(と)故(と)城(と)を(と)来(と)也

二十一日

日

時(と)期(と)未(と)終(と)派(と)を(と)兼(と)す、十(と)時(と)を(と)先(と)を(と)付(と)く
淡(と)茶(と)に(と)引(と)り(と)身(と)身(と)格(と)を(と)し(と)心(と)並(と)汽(と)を(と)見(と)水
代(と)橋(と)色(と)格(と)を(と)見(と)、水(と)代(と)を(と)上(と)港(と)京(と)
漢(と)入口(と)の(と)設(と)備(と)を(と)観(と)望(と)、柳(と)前(と)地(と)を(と)自(と)動

車も船も出で、中央ステーションに集合し、
飲るところ、婦人倶楽部に依り、此の物を
寄せてみる、敵目善く、物を贈る来り、

二十二日

拂曉、家へ一返り、と、非常時待機令に召集、
船も筆を、駒井徳三の島、河津、四の海、淡
と淡、九時、以、驟雨、利り、水、龍、二、来り、小
品、背、董、二、三、と、購、小、驟、雨、志、き、く、去、来、午
後、無、聊、振、回、休、譯、ト、ー、デー、の、風、車、小

履、便り、を、淡、り、昂、而、是、地、を、来、る、條
田、銀、送、り、と、其、道、に、有、幕、末、の、以、七、百、後、に、余、の
序、を、徴、し、来、り、

二十三日

昨、朝、未、始、報、を、筆、す、亦、條、田、の、為、め、序、文
を、草、す、亦、以、其、一、示、此、地、を、武、田、信、玄
交、々、年、初、昂、と、其、十、因、交、付、而、若、地、に、ゆ、く、
倉、敷、の、原、淡、流、と、枕、を、取、送、り、来、り、午後
ト、ー、デー、を、淡、り、

二十四日

時、薩田橋邊に宿す、薩田を以て依頼の序文以て遣
つれことを承見し、朝未改心し、初行成る石
山、賢玄を以て其若、庄川河魁と号せしむる、
ト、デーの河車、中屋を讀み、十時半出版
部の幹部、今に歸り、二時迄帰郷し、七時
驅向志きりし去来、物書後、終日と筆す、通
宵而去来

二十五日

藤原製

時、朝未、終日と筆す、村山、ぬし、山、來三
来、梅、河、瀬、三、平、山、田、清、心、來、功、復、初、志
木、方、名、集、配、本、十、時、出、版、九、日、ル、物、を、婚
ハ、ス、テ、ー、レ、シ、ヨ、ン、念、を、以、て、飲、し、て、妙、一、島、崎、在、村
の、千、曲、川、の、ス、ケ、ウ、チ、を、讀、む、九、州、島、吉、柳、馬、垣
の、備、忘、録、也

二十六日

星、後、雨、未、日、三、の、志、を、校、を、今、に、つ、き、殊、況
寅、次、り、來、功、十、時、迄、を、代、り、し、終、日、也、二

三札を膝の間に抱き、甚く酒飲し、夜後春
打の子色川を渡り、午後降雨、終夜つづく

廿七日

雨氣湯と冷を多し、森路の北條家亭を
潰し、武田尾を丹波、旅宿も兼す、夜入
り雨

廿八日

日

雨、朝未旅宿を兼す、山田は凡そ功宿を村

林原製

山秋浦来り、あの美濃りく、袋付の古寄紙を
巻戻り来り、路の北條家亭を潰し、十
時迄を控して出浴所生、飯し物を編みゆき、
午後夏却に附くき不用品を捨出す、林村に
旦と電氣を交わ

廿九日

町七百流の序を浄室し、信濃宿迄、定宿す、
村山秋浦書意と演り、惣定とち、名宿
次中、美亦儀の日来月三〇を有、来り来り、自
娛老も保才ハ丹波一集り、宿場森村の隨

筆を洗ひ、非常時臨時議令に於ける多数黨
政府と正面衝突政府窮乏、改口献言を後
早大を以て新編各校を以て臨時議令を以て
十路田利未、改修、二二三の郵去を以て
改修の比候、東平後より

三十日

頃、三日内省のつき、藤井一冊、原平一冊
教職松井郡流、高平流、古刊を以て
丁、昂進、若地、海客、引拂、二付、為、物

文現の爲、文三と老、藤田、發、進、二と、流、を
利、の、能、能、を、筆、を、及、上、以、爲、事、を、好、し
注、射、を、施、す、非、常、時、議、令、難、関、に、ぶ、つ、か、り、三
日、間、通、令、の、延、長、さ、る、可、能、と、共、と、大、崎、に、於
け、る、今、社、合、工、場、の、建、築、換、合、に、行、く、既、に、全
部、が、成、功、全、入、江、平、等、と、南、浦、園、に、飯
す、赤、葉、入、八、山、と、直、以、桂、次、等、に、郵、送、
昂、進、若、地、と、海、客、長、崎、正、利、と、未
書、直、に、送、る、也、

三十一日

明朝未だ終戦と筆下り、龜山、雪室の山あり
一幅と題し、未だ示す、森脇美指、其論文
の協今、發行英文「大日本」才二冊出版
成る、長官校なるを、未書、其方田、七十余
と述べ、いり云々の考、其上、望永、功、其、他、校
及、其、未、也、島、以、為、村、の、地、筆、下、と、讀、み、
上、望、美、永、功、二、返、函、を、投、し、其、也、
散、集、す、

藤原製

九月

一日

二百十日、昨夜、風、強、し、九、年、前、大、震、
災、の、事、也、武、田、金、次、其、法、出、版、部、に、て
出、版、の、大、隈、春、又、書、の、事、也、誰、れ、を、筆、
す、海、を、身、と、未、尚、物、有、の、即、擧、事、し
未、籍、表、千、文、の、場、合、も、未、松、井、郡、況、も、
未、也、真、以、典、二、と、之、母、一、通、志、法、安、の、葉、子、
未、大、地、震、の、時、を、思、ひ、振、飯、も、午、の、時、を
過、す、下、が、大、震、の、時、刻、も、及、遠、近、各、本、の

鐘あり少きもの、瑞生堂禱教刻、和巻記
三、あり難果と書印二時、お出物と精
あつ物、村山秋浦と物と路々、真山典
二、香一函を率送す、

二日

晴、ぬ日物玉二つき、女のぬり、海子物と為す、
三、あり五十四引出し、五十四印、
長場二利、山湯鴨屋の二幅を替へ、
燈定を乞ひ、片に廣物也、電山奉三、

棟原製

雷家の山あり一幅を替へ、九片田の代巻の
内二十日拂、宮崎、
式るん、
七、
書州、
との相、
報、

三日

晴、杉井、
今朝出、

日ニ後念めしと云りし事、由子と金る二
十日交付、先と付あを八時家を出づ、上電ス
テ、レ、シ、ヨ、ン、ヨ、と板口献支と後念九時日車
上傾緩くと覺す、車中心況を讀む、十一
時念事、孰し麦酒を飲む洋念公教志
吃あ、地、く、ま、十二時、ま、あ、上、野、達、来、此
迄、日、新、設、の、旅、念、多、く、中、三、層、の、建、築
也、あ、此、海、鏡、中、り、由、日、念、地、と、稱、さ、ん、居、ん
と、左、ま、か、り、所、ま、く、ま、く、此、所、ま、く、ト、ン、子、に、
か、る、湯、梅、湯、と、ル、ー、パ、式、ト、ン、子、に、ニ、ケ、木、を

榛原製

出入りし、湯、あ、ト、ン、子、ル、に、入、り、舊、色、の、ト、ン、子
ル、を、延、長、九、十、七、の、の、尺、乃、ち、四、里、也、(過、時、言
十、分、を、あ、り、ま、ト、ン、子、ん、中、涼、味、蒸、解、脱
し、上、着、を、脱、ら、せ、ん、清、き、湯、あ、を、冷、
氣、を、受、め、ト、ン、子、ん、を、出、て、工、事、中、狗、糞
者、の、碑、あ、り、ま、ん、又、ニ、ケ、木、の、ル、ー、パ、ト、ン、
子、ん、入、り、中、里、を、経、て、湯、原、に、到、り、湯、原
ま、く、驪、南、に、過、り、石、打、に、北、上、傾、緩、を、記、す
伊、豆、あ、る、尾、村、資、の、物、像、あ、り、横、は、六、日
町、と、い、ふ、出、て、出、て、川、口、十、午、谷、を、経、て、長

馬に連す、時三時をこく、驛頭唐井川
上法願松川中、中、関、大、中、才の、板、友、
今、す、の、白、を、約、し、七、為、
四、時、四、分、に、行、
着、
市、
の、
庫、
の、
山、
田、
教、
城、
真、
時、
中、
大、
中、
河、
入、
雪、
大、
ら、
入、
行、
河、
は、
多、
常、
勤、
元、
締、
等、
の、
出、
也、
を、
多、
計、
直、
に、
篠、
田、
松、
の、
技、
を、
冊、
共、
原、
平、
来、
河、
山、
田、
教、
城、
を、
保、
せ、
と、
心、
を、
昨、
二、
と、
七、
の、
百、
取、
す、

四日

榛原製

時、五時に床、真時中大中村、時、時、唯、原、井、忠、
大、中、高、を、流、去、交、ま、来、河、高、原、を、市、
時、春、
書、の、振、本、と、山、形、の、玩、を、と、好、く、二、三、の、幅、
第、一、巻、一、七、頁、爲、に、反、す、
後、真、時、
を、留、め、
午、時、に、
牛、
田、
合、
を、
催、
す、
十、
二、
時、
十、
五、
分、
の、
汽、
車、
一、
と、
光、
之、
十、
時、
の、
旅、
の、
仰、
母、
を、
訪、
り、
の、
為、
め、
直、
に、
時、
を、
付、
め、
て、
去、
る、
余、
は、
一、
時、
中、
分、
の、
為、
め、
直、
に、
時、
を、
付、
め、
て、
去、
る、
長、
原、
の、
板、
友、
合、
に、
臨、
む、
為、
め、
の、
爲、
め、
直、
に、
時、
を、
付、
め、
て、
去、
る、
指、
母、
の、
書、
籍、
文、
を、
も、
と、
見、
る、
大、
隈、
原、
と、
山、
田、
教、
城、
冊、
共、
原、
平、
改、
に、
献、
す、

：此の、夜中、首末、代五、日、光、持、冬、和、る、あ
さき、く、え、ぬ、く、七、五、日、郵、送、内、ヶ、崎、作、三、印
版、部、丈、四、中、二、教、授、高、島、く、も、未、田、お、人、の、講
演、回、時、乃、半、一、と、さ、余、の、松、井、お、お、お、の、
校、友、連、七、八、と、候、多、分、の、皆、常、譽、傳、の、別、家
こ、お、あ、を、開、キ、七、時、の、漸、や、く、今、滿、と、終、み
え、ん、と、余、の、今、と、後、の、未、今、六、十、段、又、余、の、序、上
号、校、の、江、次、と、報、先、主、余、の、九、の、二、十、七、合、の
汽、車、を、新、河、の、切、り、又、新、河、の、夜、友、皆、の、
川、の、漁、船、を、さ、う、さん、と、い、ち、り、の、子、に、留、る、舟、此、の、仁

棟原製

一、の、み、余、の、抱、も、新、河、の、切、り、の、政、新、内、ヶ、崎、二、教
授、七、に、ぬ、東、あ、く、ゆ、く、の、光、五、十、段、と、早、く、ゆ
お、し、あ、く、十、一、時、の、こ、ゆ、ぬ、を、あ、ら、し、七、寝、の、就
く

五日

時、今、朝、五、時、起、床、成、文、生、嗚、の、道、途、言、情
の、こ、こ、越、し、山、陽、寺、向、り、匠、に、寫、す、冊、子、
持、春、の、世、物、を、油、ひ、淨、念、寺、に、お、た、春、の、命
託、葉、子、を、い、と、油、お、九、時、自、動、車、を、假

あま高命の止く三千里の家三十合を連し
直に真の家を訪ふ主人あらくしめ余を待
つ同去りて、欽作中酒饌出せ、淡路島に
系りし、忽ち雷雨轟轟と驟雨利く、雨ぬ
きく三時以自動車と御少を新島甲
馳す、休く木色(新道)開け道路廣し
四里の家一時別へ達す、旅余に就かす
直りて、校友合坊北辰館に入つ、小憩の後
先を五十里浄念寺辰墓へ為め是より真
路を尋ね入る生花と齋す、亦驟雨列

ふ上りて、妻家次長深軌男清女中四郎
丹兵衛原平、其他校友進て余を訪ひ来り
長海(と)自心(の)詩行(を)印摺(し)等大小二
冊を贈りて、余物の世帯の文書等と見せ大
隈庵を上り、妻家次と出づ、七時頃校友
の合席に臨む、十四名出席、余一坊の
後、後をもちす、席に就任、南太新島、田舎茶
室去りて、由目(開通)の邊あり、地を越かん
す、ついで、高島(沼)を、東道を托し、九時
丹兵衛(傳)車に乗り、西条に到り、此後

寝、此より驟る雨、雷鳴、本生處に臥
し、道宿園中のお寺を交く、丹其夫人
好月為外今高病、息を離れようといふ、此の
偶々中條村社に傍り、祭礼して市中、云々賑
ふ、自動車、親と過す

六日

雨、早起、知人の駕、應し、送儀、短冊、六、幾十
数紙、揮毫、丹其西城夫人、京都、あるの
日中、林竹洞、路、ゆるゆる、端活の所、

藤原製

正に、是夜と心、方、森、記、先、新、島、田、と
来、鷹の巣と記、あり、途中、中條の好月庵
、午、浦の橋、を、りて、自動車、を、御、り、十時
、暮、了、丹其、山、日、行、春、の、祭、ま、む、約、六、里
途中、辰田村を過き、んことを、報、す、此村
、往、年、余、が、家、の、存、り、し、家、を、り、下、間、附、山、に
、あ、り、十一時、大、塚、村、を、経、て、漸、や、く、辰、田、に、入、り
、此、道、通、級、行、松、あり、左、側、に、家、が、余、の、家
、の、向、あ、ら、う、し、が、今、日、皆、素、田、に、変、り、し、何、物
、も、存、を、ず、車、を、駐、め、て、四、圍、の、山、景、を、觀、望、す

憶の情に堪らず、下関も田舎ありしが、
今の尋ねる由り、奥平宿の末の宿
せし。此田家も辰田の家、其後の建築
に爲し、秋月種村、辰田の家、来りし也
下関も、熟い家二軒あり、河邊と左邊
并に、た津原玄信、今の主人茶と云ふの家
んらう、其の家前を通り、漸やく高瀬湯
の前を流り、川に達す、今の登橋を築し
橋を渡り左へ行けば湯原に到り、右へ行
けば高瀬に到り、此の湯のみ、余が辰田に左

りし、後志づく、流びやる石也、附近の山は皆
喜知、そのもの感るきを、得ず、又平
あ湯のみ、換橋を車上をもえ、更らば車を
地せし、鷹島の築、向ふ高瀬を距ること一
里許、米津街道とあり、川の村を經て、漸
やく達す、此地に村上方力電氣の発電所
あり、鷹の巣の湯のみ、旅館、此今社の經
言する所也、釣り橋を渡り、鷹の築、館
入り附近の温泉を探り、川を隔り、翠
雲寺、川、巨岩あり、其状、桐の如し、騰

の棚岩の名ある所也。米沼、浙道、二方面
の山を穿つて通す。行人皆画中のよありと
以て、段と添内、湯沼、高瀬、比、すん、山、風景
数ある上、あり、此、大内淵の名あり、
閑、あ、ん、バ、敷、の、滞、在、す、る、可、也、。鷹、の、此、築、段
、休憩中、既に十二時を過ぎ、夕、飲、食
せす、中、茶、を、自、動、車、を、馳、す、一、時、半、を
費、し、て、中、茶、に、^{（建）}松、月、庵、に、入、る、此、日、家、余
の、懇、談、也、一、時、年、新、り、く、時、を、交、を、禁、ま、き
余、も、扁、額、と、請、ふ、乃、ち、書、く、し、て、其、の、心、

其、心、入、つ、て、又、ん、に、一、室、に、余、の、者、二、款、と、掲、け
あり、重複の感、有、き、能、は、す、此、日、敬、を、察
部長と、迎、ふ、余、あり、丹、其、の、所、去、の、故、を
以、つ、て、翰、旋、の、衝、に、當、り、余、等、と、共、に、飲
む、能、は、す、余、の、酒、を、飲、む、と、共、に、從、ま、し、以、飲、之、道
の、法、を、實、中、丹、其、敬、を、余、の、部長、と、伴、を、
余、の、席、に、未、だ、此、人、早、稲、田、中、の、名、の、出、身、に
也、報、徳、宗、留、玉、其、の、子、也、中、條、の、敬、を、余、
若、く、お、許、す、心、中、條、の、名、の、板、也、亦、余、
外、之、重、也、余、の、席、に、未、だ、換、抄、を、す、す

四時之中茶と餅と汽車と投し所は油
へ二、三の夜道も先へ一泊早く寝て就
く、宇尾中津と来て且つ物を貯る
来り

七日

晴今朝冷気をも是れ、高松迄去ると借り
た小田の儀、一午の旅行を執り、九時
物を高し、一、栗林宅を訪ひ暫く話して
帰る、彼信吾、宇尾中津来て、宇尾中

の囀り、色紙五葉挿毫、午飯後光
舟に五十時の旅行、伯母を訪ひ、栗林宅一
来り、旅行の、生命支店長殿部、全次郎
耳の、松井郡次来り、余を送る、行形、亭に
飲む、高松、宇尾中津、村中、高松、高松、高松
中、白席、二時、高松、高松、高松、高松、高松
校友と飲む、高松、高松、高松、高松、高松
二、三、先、五十時、高松、高松、高松、高松、高松
寺を参り、高松、高松、高松、高松、高松

八日

時今日午後一時十五分の急行上野線に
乗じ、法し東京まで、電信を乗せ、先物
を濟し、高橋菜次と法し、彼信を乗
沃果物を贈る。先高橋の娘二人を付
い來り、密約して別り、家苞と二三の家
物を贈る。名分拂八十一日約奉行三十
日如中、五山汽車賃十九日約拂、午
餐の級傳、東浦、利り、杉井音取橋安
系、彼、の、生、命、支、店、社、員、等、元、夫、り

藤原製

●為來り、手荷物十三個の多き、遠く
多く、法方とて、寄りせらるる、也、五時
過ぎ、ト、子、心、を、送、き、澁川、迄、う、し、念、を、
入り、酒、飲、ち、八時、三十分、上、野、着、直、家
に、物、を、送、り、不、幸、中、山、中、樵、田、中、島、邊、不、幸、久
平、中、村、祥、心、初、小、王、文、庫、日、本、園、出、張、場
今、等、と、し、未、出、里、田、玄、鶴、の、子、孫、と、し、石
綿、論、天、命、并、に、等、と、し、寄、り、せ、ら、る、る、續、花
書、印、譜、と、文、の、書、と、し、定、り、て、来、り、西
村、徳、大、り、と、し、未、出、

九日

晴、不立甲の家務を理ゆ十時日蓮甲別舎此の
重役令に臨む、午後帰宿中の紀行を録
し亦焼飯を兼す、十時以てを驅馬去
来、御子王文庫に及出を兼す、宿舎
況左に海出を兼す、徹夜有る。

十日

二百廿日

雨、雷ん風無く天候平穏也朝未旋飯を兼
す、同大甲に未出、此夜の兼家あり湯水の

藤原製

池漸やく湯の、丹美真山杉井、海出
を兼す、又秋の園支、投函、藤田貞
家、小久江等、一月迄、午後飯兼焼飯を讀
む、原久一印、丹美の久一印、海の永遠の良人
并、トルストイ、原若貴、難の道、二冊を讀つ
て去る、外、酒肴一盃持参、

十一日

日

雨、沢大甲、海出の令到来、阪上弘義、其の治射
を兼く、こと例の如し、十時出浴、三帳本店

二節は洋の心品展覧を以て一二物を鑑み
資生堂二館と物く、休庵春文の田圃の
真実與之と讀む、亦旅泊を兼す、小金屋満
州利船と物く玩考を終り、通宵向ふ。

十二日

雨、城後と世帯のあつ田崎崎の旅館
十二冊を讀後し、為の記事をも抄録し
半日も費し、朝の侍も、西の河あつて
去き、陰鬱云々方々。

榎原表

十三日

雨、朝未旅館を兼す、改口献支武田尾
末未橋、松井邸沈閑大甲し、河す、午後
大江乙末の、四時ある善次郎を以て、
別荘の同出陳列する、亦を協議す、朝未
和庵有野市士川口塩坂浅次郎も、利米果
を終り末の、夜よ基知す。

十四日

和氣深く、朝未旅館と兼す、塩津浅次郎

（の印創分二坊建築治人）と未也、直に
河を其の、驛西去きうり利つ、半日船程を
一、貸て出、船拍を船を泊り、五十の旗
先母、拍を船、先家、夫、其、を、の、
連の、石、四、時、報、余の、造、業、一、命、を、
山、平、三、山、陽、の、お、幅、を、お、り、未、也、

十五日

陰、満、物、圓、家、承、徳、の、日、未、也、
時、以、
又、而、
田、代、
亮、
外、
未、也、
日、本、
回

藤原製

方、彼、場、合、
未、也、
菊、池、
重、三、
年、
流、
経、
乙、森、
陽、
美、
桐、
十、
事、
田、
代、
亮、
外、
名、
七、
尾、
と、
未、
也、
午、
夜、
を、
け、
し、
と、
お、
丹、
兵、
三、
郎、
平、
の、
子、
久、
也、
未、
也、
二、
三、
の、
土、
産、
を、
齎、
し、
未、
也、
船、
程、
を、
一、
日、
を、
船、
ま、
深、
衣、
又、
也

十六日

雨、相、未、
船、程、を、
一、
日、
を、
船、
ま、
深、
衣、
又、
也、
未、
也、
三、
山、
陽、
の、
田、
姓、
等、
七、
律、
の、
題、
雨、
を、
船、
の、
乃、
と、
也、
未、
也、
市、
本、
流、
衣、
と、
未、
也、
雨

：皆りのくん終の記長

十七日

雨、朝東強風と兼り山田迄凡そ湯、午後雨
漸く霽り、去遊二物と姓の二物、折紙に半
日と書す、

十八日

日

霖雨漸やく霽り、糸満州事夏湯一周年、
朝東強風と兼り、畝目美老古湯田乙四、飯
塚彦次より来り、栗林羊一と梨果を送

榎原製

り来り、浄念寺産漸く、植物をとる来り
午後文りせと記す、

十九日

晴、晴来秋冷軟に似たり、江木翼折しく、花
を兼り一時と移す、酒川真崎と味留法
五升樽、菓子一函、刺来、真崎、栗林、湯
と記す、午後三時出、飯部、幹部、今
臨む、一城、書、店、湯、本、園、考、記、の
セ、イ、ある、と、記、す、今夜自天、軒、に、

夕方カを振舞高田の外出部カ幹部各席、高
橋高三〜福崎鴻のハ海部と云々来

二十日

朝未定カ云し 旋風を兼す、十時出版部
に到り中野の海義海部改正案を議す、倉部
の圖書と見り、亦自分〜預け置け〜案
形遺物十束と見り、午後物書田中兼次
未接、三時兼次少館に於て又の海部
の例合を聞き、主未定カの辨論を交す

棟原製

以下別冊ニツク

This page features a ledger layout with 12 vertical columns. A blue border frames the entire page. On the left side, there is a blue triangular tab and a small blue semi-circle. At the top center, there is a faint red stamp.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

This page features a ledger layout with 12 vertical columns and a blue border. On the right side, there is a blue triangular tab and a small blue semi-circle. At the bottom left, there is a vertical stamp.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

棗原製

閱覽室

廿五

榛原製

